

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	社会福祉概論	授業の形態	講義		使用教室	講堂
担当講師	姫野 建二 先生		一般			

教育目標	<p>1.現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係、又、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の課題について理解する。</p> <p>2.福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。)や福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策を含む。)の関係、又、相談援助活動と扶養政策との関係について理解する。</p> <p>3.「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。</p>
------	--

回	主題	内容
第1回	人間理解と尊厳の保持・自立支援	人間の多面的理解、人間の尊厳、自立・自律他理解し、権利擁護・アドボカシー、人権尊重、身体的・精神的・社会的な自立支援他の理解する
第2回	福祉制度・政策の概念と理念について	福祉制度及び福祉政策の概念と理念について具体的に理解する
第3回	福祉制度と福祉政策の関係	福祉制度と福祉政策の関係について具体的理解する
第4回	前近代社会と福祉	救貧法、慈善事業、博愛事業について理解すると共に相互扶助・その他について具体的に理解する
第5回	近代社会と福祉	第二次世界大戦後の窮乏社会と福祉、経済成長と福祉・その他について具体的に理解する
第6回	現代社会と福祉	新自由主義、ポスト産業社会、グローバル化について理解すると共にリスク社会、福祉多元主義・その他についても理解する
第7回	需要とニーズの概念及び資源の概念	需要の定義、ニーズの定義、その他について理解し、資源の定義・その他について具体的に理解する
第8回	福祉政策と社会問題	貧困、失業、要援護一児童、高齢、障害、寡婦について理解し、偏見と差別、社会的排除、バルネラビリティ、リスク・その他について具体的に理解
第9回	福祉政策の現代的課題と国際的動向	福祉政策の現代的課題について社会的包摂、社会連帯、セーフティネット・その他について具体的に理解する
第10回	福祉政策の論点	効率性と公平性、必要と資源、普遍主義と選別主義、自律と依存について又、自己選択とパターナリズム、参加とエンパワーメント、ジェンダー、福祉政策の視座・その他を理解する
第11回	福祉政策における政府・市場・国民の役割について	福祉政策における政府及び市場並びに国民の役割について理解する
第12回	福祉供給部門・供給過程・利用過程	政府部門、民間一営利・非営利部門、ボランティア部門、インフォーマル部門、その他を理解する、公私一民関係、再分配、割当、行財政、計画・その他について理解する、スティグマ、情報の非対称性、受給資格とシティズンシップ・その他について理解する
第13回	福祉政策と教育・住宅・労働政策について	福祉政策と教育政策・住宅政策・労働政策について具体的に理解する
第14回	福祉供給の政策過程と実施過程	福祉供給の政策過程と実施過程について理解する
第15回	全体のまとめ	全体のまとめとして総括を実施する

評価方法	授業態度(10%)、出席状況(10%)、発表参加(10%)、レポート(10%)、定期試験(60%)等から総合的に判断し、6割以上の成績を以って合格とする。
教科書	・「現代社会と福祉 最新版」中央法規
参考書	・「最新版 版厚生労働白書」発売：全国官報販売協同組合 ・「社会福祉六法 最新版」ミネルヴァ書房 ・社会保障の手引き 最新版 中央法規

作成日：令和6年4月1日

理学療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	心理学		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	石川貴史	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を通して人間の心をとらえる基礎となる考え方や視点について伝える。			

教育目標	国家試験に必要なとなる知識の習得を図る。 心理学的基礎知識を基に2年次の精神医学に繋がる知識、考え方を身に付ける。
------	--

回	主題	内容
第1回	心理学とは	なぜ心理学を学ぶのか？リハビリテーションに活かす臨床心理学
第2回	精神分析①	精神分析における理論
第3回	精神分析②	精神分析における理論
第4回	防衛機制①	防衛機制について
第5回	防衛機制②	防衛機制について、障害受容について
第6回	心理的問題①	乳幼児期、児童期における心理的問題
第7回	心理的問題②	思春期、青年期における心理的問題
第8回	心理的問題③	中年期、老年期における心理的問題
第9回	心理療法、理論モデル①	臨床心理学の介入方法(行動的)
第10回	心理療法、理論モデル②	臨床心理学の介入方法(内面的)
第11回	心理療法、理論モデル③	臨床心理学の介入方法(相談的)
第12回	心理検査①	人格検査
第13回	心理検査②	発達検査、知能検査
第14回	心理検査③	神経心理学的検査
第15回	まとめ	まとめ

評価方法	定期試験で60%以上を合格とする。また、小テスト20%、定期試験80%で総合点を算出する。
教科書	はじめての講義 リハビリテーションのための臨床心理学
参考書	作業療法学 ゴールドマスターテキスト 作業学 第3版 リハベーシック 心理学・臨床心理学

理学療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	社会性向上セミナーⅠ		授業形態	講義	使用教室	講堂・PT1
講師	綾部 雅章		一般			

教育目標	① 医療人としての意識を高め、素地を育む ② 医療人としての必要な広い社会性を身に付ける ③ 職業の素晴らしさを知り、『理学療法士・作業療法士になる』という動機付けを高める ④ 講義を通して自身の考えをまとめ、人へ伝える力を身に付ける
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	
第2回	テーマ：「誠実な医療人として必要な姿勢について」	
第3回		
第4回	テーマ：「相手の立場に立って考える」	
第5回		
第6回	テーマ：「理学療法士・作業療法士になるために、学院生活で実践していくこと」	
第7回		
第8回	テーマ：「これからのPT、OTに求められること～リハビリの現状と今後～」 ※ 接遇・身だしなみも含めて	
第9回	テーマ：「リハビリテーションにおける作業療法とは」	
第10回		
第11回	テーマ：「リハビリテーションにおける理学療法とは」	
第12回		
第13回		
第14回	テーマ：「理学療法士・作業療法士の魅力について」	
第15回	総括	

評価方法	出席状況、授業態度、レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする
教科書	なし
参考書	なし

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	情報処理	授業の形態	講義		使用教室	PT1
担当講師	古賀 浩二 先生		一般			

教育目標	<p>OPCの簡単な操作ができること</p> <p>OMS-Wordを用いて簡単な文書を作成し印刷できること、また、Excelを用いて簡単な表が作成できること</p>
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、コンピュータハードウェアとは
第2回	コンピュータの基本	コンピュータハードウェアの種類と役割
第3回	コンピュータの基本	ソフトウェアの種類と役割
第4回	PC操作の基本	MS-Windowsによるデータ管理、プログラム管理。OSの操作方法（OSWindowsを操作する）
第5回	文字列の入力	OSの操作方法（つづき） 文字変換を伴う日本語入力（連文節変換）、入力演習
第6回	MSWORDの基本（概要）	MS-Wordの基本（書式設定の範囲、段落の概念とページ設定の練習）日本語入力演習、文字列複写・移動・削除
第7回	MSWORDの基本（ページ・段落のレイアウト）	ページ設定（おさらい） ビジネスレターの作成（段落レイアウト設定 行内配置）
第8回	MSWORDの基本（段落レイアウト）	ビジネスレターの作成（段落レイアウト設定 ルーラ、タブ、箇条書きの利用）
第9回	MSWORDの基本（段落レイアウト）	ビジネスレターの作成（段落レイアウト設定 つづき） 練習問題を使った書式設定のまとめ
第10回	MSWORDの基本（図の利用）	練習問題を使った図の作成（オートシェープ）
第11回	MSWORDの基本（表の利用）	図、及び表を含む文書の作成
第12回	MS-Excelの概要	エクセルの機能、画面説明、文書構造、入力データ
第13回	MS-Excelの基本	エクセルで利用する数式とは Excelのキーボード操作、マウス操作
第14回	MS-Excelの基本	練習問題を使った表の作成（データの入力）
第15回	MS-Excelの基本 まとめ	練習問題を使った表の書式設定 全体を通したまとめ

評価方法	出席並びに受講態度、および、授業中に課す課題の内容と提出状況、期末テストの結果60点以上を合格とする。
教科書	30時間でマスター Windows10対応 Word & Excel 2021
参考書	

作成日：令和6年4月1日

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	医学英語	授業の形態	講義		使用教室	視聴覚
講師	小池 知英				一般	

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実践に必要な英文法を理解する。 ・副教材を通じて英語のリズム、発音などの基礎を学ぶ。 ・医療現場での簡単なコミュニケーションの基礎を作る。
------	--

回	主題	内容
第1回	ガイダンス	現在までの自分の英語学習を振り返り、今後の方針、目標を具体的に考える。次週からの単語テスト資料配布。副教材の解説。
第2回	英文法基本① 8品詞・文とその構成要素	授業内容：単語テスト①、主題項目の解説、副教材個別指導。 HW：授業内容の復習、暗記。単語テスト及び副教材暗誦の準備。
第3回	英文法基本② 文型と文の種類・句と節（講義）	授業内容：単語テスト②、主題項目の解説、副教材個別指導。 HW：授業内容の復習、暗記。単語テスト及び副教材暗誦の準備。
第4回	Lesson 1	授業内容：単語テスト③、Lesson 1解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 1復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第5回	Lesson 2	授業内容：単語テスト④、Lesson 2解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 2復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第6回	Lesson 3	授業内容：単語テスト⑤、Lesson 3解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 3復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第7回	Lesson 4	授業内容：単語テスト⑥、Lesson 4解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 4復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第8回	Lesson 5	授業内容：単語テスト⑦、Lesson 5解説、問題演習。副教材個別指導 HW：ミニテストを視野に入れたLesson1- 5復習。単語テスト及び副教
第9回	Mini Test	授業内容：単語テスト⑧、Mini Test。副教材個別指導 HW：単語テスト及び副教材暗誦の準備
第10回	Lesson 6	授業内容：単語テスト⑨、Lesson 6解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 6復習。単語テスト及び副教材暗誦準備
第11回	Lesson 7	授業内容：単語テスト⑩、Lesson 7解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 7復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第12回	Lesson 8	授業内容：単語テスト⑪、Lesson 8解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 8復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第13回	Lesson 9	授業内容：単語テスト⑫、Lesson 9解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 9復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第14回	Lesson 10	授業内容：単語テスト⑬、Lesson 10解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 10復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第15回	Lesson 11	授業内容：単語テスト⑭、Lesson 11解説、問題演習。副教材個別指導 HW：期末試験までLesson 6- 11復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備

評価方法	副教材達成度(20%)、単語テスト実績(10%)、ミニテスト(30%)と前期試験(40%)の比率で評価し、60点以上を合格とする。
教科書	PT・OTが書いたリハビリテーション英会話 / 授業時配布される演習教材(オンラインで配布)
参考書	英文法ビフォーアフター

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	運動系統学 I		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	石田 恭涼	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、運動器疾患の作業療法で学んだ解剖学知識を活用し指導している。			

教育目標	理学療法士・作業療法士の基礎となる解剖・生理学を骨、関節、靭帯、筋を系統立てて運動器として理解する。①身体部位の名称を覚える。②骨・関節・筋の名称を覚える。③関節の形態より運動を理解する。④筋の走行と作用を理解する。
------	--

回	主題	内容
第1回	生体の構造と機能	解剖学・生理学・運動学の関係/解剖学的用語
第2回	肢位・姿勢	身体運動の面と軸、構えと体位
第3回	骨総論	骨の形態・構造
第4回	関節総論	骨の連結/関節の構造と機能
第5回	筋の総論	骨格筋の作用/骨格筋の支配神経・筋の呼称
第6回	骨：上肢	肩甲帯・鎖骨・上腕骨
第7回	関節：上肢の連結	肩関節(肩甲上腕関節・胸鎖関節・肩鎖関節)
第8回	関節：上肢の連結	肩関節(肩甲胸郭関節・第2肩関節)
第9回	筋：上肢	肩関節の筋
第10回	筋：上肢	肩関節の筋
第11回	筋：上肢	上肢帯の筋
第12回	筋：上肢	上肢帯の筋
第13回	骨・関節：上肢	尺骨・橈骨・手根骨・手指、肘関節(外反肘)
第14回	筋：上肢	肘関節の筋
第15回	筋：上肢	肘関節の筋、上腕の断層解剖
第16回	筋：上肢	前腕の筋
第17回	筋：上肢	前腕の筋、前腕の断層解剖
第18回	関節：上肢の連結	手関節(手根管)、手指の関節
第19回	関節：上肢の連結	手関節(手根管)、手指の関節
第20回	筋：上肢	手内在筋、まとめ
第21回	関節：上肢の連結	上肢の関節の運動(凹凸の法則、てこ)
第22回	骨・関節(上肢)	骨の発生/骨の代謝(リモデリング)
第23回	まとめ	まとめ

評価方法	小テスト2割・定期試験8割の筆記試験の結果、総合的に60%以上の得点を合格とします。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 『解剖学(第5版)』野村 嶺 編 医学書院 『基礎運動学(第6版 補訂)』中村隆一、齊藤 宏、長崎 浩 著 医歯薬出版 プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版、坂井建雄、医学書院
参考書	国試の達人 2022 運動解剖生理学編

理学療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	運動系統学Ⅱ		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	石堂 優太	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、運動器疾患の理学療法で学んだ解剖学知識を活用し指導している。			

教育目標	理学療法士・作業療法士の基礎となる解剖・生理学を骨、関節、靭帯、筋を系統立てて運動器として理解する。①身体部位の名称を覚える。②骨・関節・筋の名称を覚える。③関節の形態より運動を理解する。④筋の走行と作用を理解する。
------	--

回	主題	内容
第1回	前期の復習	骨、関節、筋について
第2回	骨:下肢帯	寛骨(腸骨・坐骨・恥骨)、仙骨
第3回	関節:下肢帯	恥骨結合・仙腸関節、骨盤
第4回	骨:自由下肢帯	大腿骨(頸体角、前捻角)/膝蓋骨
第5回	関節:自由下肢骨	股関節・靭帯・運動
第6回	筋:下肢	骨盤・股関節に付着する単関節筋
第7回	筋:下肢	骨盤・股関節に付着する単関節筋
第8回	下肢の運動	まとめ
第9回	骨:自由下肢帯	脛骨・腓骨
第10回	関節:自由下肢骨	膝関節・靭帯・半月板・運動/荷重軸・FTA
第11回	筋:下肢	股関節・膝関節に作用する二関節筋
第12回	筋:下肢	股関節・膝関節に作用する二関節筋
第13回	骨:自由下肢帯	足根骨・中足骨・指節骨
第14回	関節:自由下肢骨	脛骨・腓骨の連結/距腿関節/足部の関節
第15回	筋:下肢	足関節の筋、足の内在筋
第16回	下肢の運動	まとめ
第17回	骨:脊柱・胸郭	頸椎・胸椎骨・腰椎
第18回	骨:脊柱・胸郭	胸骨・肋骨
第19回	関節:脊柱・胸郭	椎体・椎間関節/肋椎関節/胸肋関節/靭帯
第20回	筋:体幹	体幹の筋(腹筋群・背筋群)
第21回	筋:体幹	体幹の筋(呼吸筋)
第22回	骨・骨頭	頭蓋骨/顎関節
第23回	筋:頸部・顔面	頸部の筋/表情筋、咀嚼筋/まとめ

評価方法	2/3以上の出席を前提とする。 小テスト2割・前期試験8割の筆記試験の結果、総合的に6割以上の得点を合格とする。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 『解剖学(第5版)』野村 巖 編 医学書院 『基礎運動学(第6版 補訂)』中村隆一、齊藤 宏、長崎 浩 著 医歯薬出版 プロメテウス解剖学コアアトラス 第2版、坂井建雄、医学書院
参考書	なし

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	神経系統学Ⅰ		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	綾部雅章	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	① 神経系の各部の構成について学び説明できる ② 神経系の各部の機能について学び説明できる
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	神経系総論(1)	神経系の区分、神経系の構成<神経組織、興奮と伝導>
第3回	神経系総論(2)	神経系の構成<シナプス伝達、神経伝達物質>
第4回	神経系総論(3)	神経系の構成<中枢神経系の構成>
第5回	神経系総論(4)	神経系の構成<末梢神経系の構成>
第6回	神経系総論(5)	髄膜と脳室系、神経系の発生
第7回	神経系総論	神経総論まとめ
第8回	中枢神経系(1)	大脳<終脳~大脳半球の表面と区分~>
第9回	中枢神経系(2)	大脳<終脳~大脳皮質の機能局在~>
第10回	中枢神経系(3)	大脳<終脳~大脳辺縁系~>
第11回	中枢神経系(4)	大脳<終脳~大脳基底核~>
第12回	中枢神経系(5)	大脳<終脳~大脳皮質と髄質~>
第13回	中枢神経系(6)	大脳<終脳~大脳皮質と髄質~>
第14回	中枢神経系(7)	間脳①<視床>
第15回	中枢神経系(8)	間脳②<視床下部>
第16回	中枢神経系	大脳まとめ
第17回	中枢神経系(9)	脳幹①<中脳>
第18回	中枢神経系(10)	脳幹②<橋>
第19回	中枢神経系(11)	脳幹③<延髄>
第20回	中枢神経系(12)	小脳
第21回	中枢神経系(13)	小脳
第22回	人体の発生	胚子の発生、器官系の発生
第23回	講義のまとめ	前期まとめ

評価方法	小テスト1割、定期試験9割とし、総合で6割以上を合格とする
教科書	・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版、医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版、医学書院 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA
参考教材	・人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版 改訂第2版、日本医事新報社 ・医学映像教育センター ビジュアルクラウド 目で見える解剖と生理 第2版 神経系Ⅰ /目で見える医学の基礎 第2版 神経系

理学療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	神経系統学Ⅱ		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	久保与広	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その実務経験を授業に反映させている			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・神経系の各部の構成について学び説明できる ・神経系の各部の機能について学び説明できる ・神経系の構造と機能を学び、疾患や理学療法、作業療法との関連を理解する
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 中枢神経系(15)	オリエンテーション 脊髄①<脊髄の構造①>
第2回	中枢神経系(16)	脊髄②<脊髄の構造②>
第3回	中枢神経系(17)	脊髄の復習
第4回	中枢神経系(18)	神経路①<上行性神経路①>
第5回	中枢神経系(19)	神経路②<上行性神経路②>
第6回	中枢神経系(20)	神経路③<下行性神経路>
第7回	中枢神経系(21)	神経路のまとめ
第8回	末梢神経系(1)	脊髄神経① <脊髄と脊髄神経、ベル・マジャンディーの法則、皮節>
第9回	末梢神経系(2)	脊髄神経②<脊髄神経>
第10回	末梢神経系(3)	脊髄神経③<頸神経、頸神経叢>
第11回	末梢神経系(4)	脊髄神経④<腕神経叢>
第12回	末梢神経系(5)	脊髄神経⑤<脊髄神経前半の復習>
第13回	末梢神経系(6)	脊髄神経⑥<胸神経>
第14回	末梢神経系(7)	脊髄神経⑦<腰神経、腰神経叢>
第15回	末梢神経系(8)	脊髄神経⑧<仙骨神経、仙骨神経叢①>
第16回	末梢神経系(9)	脊髄神経⑨<仙骨神経叢②、尾骨神経叢>
第17回	末梢神経系(10)	脊髄神経⑩<脊髄神経後半の復習>
第18回	末梢神経系(11)	脳神経①<脳神経の種類>
第19回	末梢神経系(12)	脳神経②<各脳神経の機能①>
第20回	末梢神経系(13)	脳神経③<各脳神経の機能②>
第21回	末梢神経系(14)	脳神経の復習
第22回	後期のまとめ	まとめ
第23回	後期のまとめ	まとめ②

評価方法	・小テスト(1割)、定期試験(9割)にて総合的に判定し、60点以上を合格とする
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版、医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版、医学書院 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版 改訂第2版、日本医事新報社 ・日本人体解剖学 改訂19版 上 骨格系・筋系・神経系、南山堂 ・絵でみる脳と神経～しくみと障害のメカニズム～ 第4版、医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版、医学書院

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	臓器系統学Ⅰ		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	橋山 浩介	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、リハビリ現場で遭遇しやすい臓器関連疾患を知る基礎として学ぶ。			

教育目標	内臓器の解剖学的特徴の基本を知る。 内臓器の生理学的作用の基本を知る。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	臓器系統学とは
第2回	人体の構成と基本的生理機能	総論
第3回	人体の構成と基本的生理機能	ホメオスタシス
第4回	人体の構成と基本的生理機能	細胞
第5回	人体の構成と基本的生理機能	組織
第6回	人体の構成と基本的生理機能	器官
第7回	内臓器官の基本構造	中空性器官
第8回	内臓器官の基本構造	中空性器官
第9回	消化器系	総論
第10回	消化器系	口腔・咽頭・食道
第11回	消化器系	口腔・咽頭・食道
第12回	消化器系	胃・小腸・大腸
第13回	消化器系	胃・小腸・大腸
第14回	消化器系	肝臓・胆嚢・膵臓
第15回	消化器系	肝臓・胆嚢・膵臓
第16回	血液	赤血球・白血球・血小板・血漿
第17回	血液	赤血球・白血球・血小板・血漿
第18回	循環器系	循環器系：血管・心臓の解剖
第19回	循環器系	循環器系：血管・心臓の解剖
第20回	循環器系	循環器系：血管・心臓の解剖
第21回	循環器系	循環器系：血管・心臓の解剖
第22回	循環器系	心電図・心臓循環
第23回	循環器系	心電図・心臓循環

評価方法	小テスト(1割)、定期試験(9割)にて判定し、総合6割以上を合格とする
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版. 医学書院. 著 野村巖 シンプル生理学 改訂第8版. 南江堂. 共著 貴邑富久子、根来英雄
参考書	理解しやすい生物 生物基礎収録版. 文英堂. 著 水野丈夫、浅島誠 標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版. 医学書院. 著 石澤光郎、富永淳

理学療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	臓器系統学Ⅱ		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	田才 葵	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	①内臓器の解剖学的特徴や基本的な生理学的作用を理解し、2年次の生理学的作用の理解に繋げる。 ②各臓器の特徴や作用を学ぶことで疾患との繋がりを考える機会となる。 ③理学療法士・作業療法士の国家資格に必要な知識を習得する。
------	---

回	主題	内容
第1回	呼吸器	呼吸器とは(構成要素・役割) 外呼吸と内呼吸
第2回	呼吸器	呼吸器系:上気道・下気道の解剖
第3回	呼吸器	呼吸器系:下気道の解剖・肺胞の解剖と基本的機能
第4回	呼吸器	呼吸器系:肺の解剖
第5回	呼吸器	呼吸器系:肺の解剖、胸郭について
第6回	呼吸器	小テスト①(第1～5回の範囲) 呼吸運動(呼息と吸息とは、呼吸筋について)
第7回	呼吸器	呼吸運動(運動の仕組み、肺機能検査:スパイロメーター)
第8回	呼吸器	呼吸運動(努力肺活量・1秒率、閉塞性・拘束性換気障害)
第9回	泌尿器	小テスト②(第6～8回の範囲) 泌尿器とは(構成要素・役割)
第10回	泌尿器	泌尿器系:腎臓の解剖
第11回	泌尿器	泌尿器系:腎臓の解剖
第12回	泌尿器	泌尿器系:尿管・膀胱・尿道の解剖
第13回	泌尿器	小テスト③(第9～12回の範囲) 泌尿器系:腎臓の機能
第14回	泌尿器	泌尿器系:腎臓の機能
第15回	泌尿器	泌尿器系:腎臓の機能
第16回	泌尿器	泌尿器系:腎臓の機能
第17回	泌尿器	小テスト④(第13～16回の範囲) 循環器系との関わり(血圧と再吸収の関わり)
第18回	泌尿器	呼吸器系との関わり(酸塩基平衡:呼吸性・代謝性調節)
第19回	循環器	全身循環(全身の血管系:動脈・静脈)
第20回	循環器	全身循環(全身の血管系:動脈・静脈)、胎児循環
第21回	代謝・内分泌	小テスト⑤(第19・20回の範囲) 同化と異化 内呼吸とミトコンドリア 代謝とは
第22回	代謝・内分泌	代謝とは 体温調節 ホルモンとは(特徴)
第23回	代謝・内分泌	ホルモンとは(分泌場所と作用)

評価方法	定期試験(9割)、小テスト(1割)にて総合的に判定する。 ただし、定期試験については60点以上を合格とする。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第4版. 医学書院. 著 野村嶺 シンプル生理学 改訂第8版. 南江堂. 共著 貴邑富久子、根来英雄
参考書	国試の達人(運動解剖生理学編) 病気がみえる<Vol.2> 第5版 循環器. メディックメディア. 医療情報科研究所 病気がみえる<Vol.4> 第3版 呼吸器. メディックメディア. 医療情報科研究所

理学療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	病理学		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	大坪健一	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	総論においては、疾病の原因とその成り立ちを理解する。 生命維持及び活動エネルギーに必須の栄養学の必要性を理解する。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション/病因論	病理学とは
第2回	退行性病変	変性・萎縮・壊死
第3回	進行性病変	肥大・過形成・化生・異形成・再生
第4回	代謝異常	糖質代謝異常、脂質代謝異常
第5回	循環障害	局所の循環障害
第6回	循環障害	全身の循環障害
第7回	免疫	自然免疫・獲得免疫
第8回	免疫	アレルギーと移植
第9回	炎症・感染症	急性炎症と慢性炎症
第10回	炎症・感染症	感染症
第11回	腫瘍	良性腫瘍・悪性腫瘍
第12回	老化	加齢による生理的老化
第13回	循環器	虚血性心疾患/動脈硬化他
第14回	呼吸器	閉塞性/拘束性肺疾患他
第15回	講義のまとめ	講義のまとめ

評価方法	受講状況、定期試験(75%)と小テスト(25%)の結果を総合的に判定し60点以上を合格とする。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 病理学 第5版(監修)横井豊治 医学書院
参考書	(動画教材) VISUAL LEARN

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	リハビリテーション概論		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	大坪 健一	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	リハビリテーション職種の職域や業種の特徴を知り、医療専門職の資格修得に向けての見識を学ぶ。 4年間での学習を大枠を理解する。
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介/マインドマップによる知識及び意識の確認
第2回	国家資格とは	仕事とは/理学療法士及び作業療法士になるために/国家試験概要
第3回	リハビリテーションとは	医療・保健・社会福祉とリハビリテーション (A-1/A-2/A-3)
第4回	チーム医療	チームの要、リハビリテーション科医 (A-8)/ 必要不可欠なリハビリテーション看護 (A-12)
第5回	チーム医療	必要不可欠なリハビリテーション看護 (A-12)/ わたしたちの大切な医療チーム (A-13)
第6回	医療・社会福祉と法律	医療・社会福祉と法律 (A-22)
第7回	医療・社会福祉と法律	医療・社会福祉と法律 (A-22)/ 地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム (A-23)
第8回	疾病と障害の関係	疾患と障害の関係(国際障害分類と国際生活機能分類) (A-7)
第9回	廃用症候群	廃用症候群はとっても怖い(A-4)
第10回	廃用症候群	廃用症候群はとっても怖い(A-4)
第11回	リスク管理	医療の安全性/感染対策
第12回	理学・作業の進め方	理学・作業療法の実際
第13回	機能評価と能力評価	機能評価なしに機能訓練を始められない (A-14)/ 機能障害にはどんな評価方法があるの？ (A-15)
第14回	機能評価と能力評価	能力低下の評価方法を習得しよう (A-16)
第15回	講義のまとめ	前期講義のまとめ

評価方法	受講状況及び定期試験の成績より、100点満点で60点以上を合格とする。
教科書	「リハビリテーション総論」改定第4版 椿原彰夫編 診断と治療社
参考教材	動画教材 ビジュランクラウド(医学映像教育センター)

理学療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	リハビリテーション医学		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	大坪 健一	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	リハビリテーションに関する疾患や病態、それらに対応する実際の概要を理解する。 4年間での学習の大枠を理解する。
------	--

回	主題	内容
第1回	車いす関連	車いすの用途及び名称
第2回	歩行と異常歩行	歩行周期と正常歩行
第3回	義肢装具	切断と義肢装具
第4回	関節可動域	関節可動域訓練とは
第5回	筋力・筋力増強	筋力トレーニング
第6回	運動麻痺と運動学習	運動麻痺のメカニズムとは
第7回	高次脳機能障害	失語/失認/失行他
第8回	老化と介護予防	老化とその対策とは
第9回	脳血管障害	脳血管障害の分類と病態
第10回	脳血管障害のリハ	リハビリテーションの目的
第11回	パーキンソン症候群他	パーキンソン症候群とSCDの病態とリハビリテーション
第12回	神経筋疾患	神経・筋疾患の病態とリハビリテーション
第13回	脊髄損傷	脊髄損傷の病態とリハビリテーション
第14回	運動器疾患	運動器疾患の病態とリハビリテーション
第15回	講義のまとめ	後期講義のまとめ

評価方法	受講状況及び定期試験の結果で60点以上を合格とする。
教科書	「リハビリテーション総論」改定第4版 椿原彰夫編 診断と治療社
参考教材	動画教材 ビジュランクラウド(医学映像教育センター)

理学療法学科	1学年	前期	単位数	1	時間数	30
科目名	作業療法士論		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	田才 葵	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を活かし講義を実施する。			

教育目標	①リハビリテーションにおける理学療法・作業療法の位置付けを理解する。 ②作業療法における作業の治療的役割を理解する。 ③作業療法の専門分野、作業療法の視点を理解する。 ④他職種の仕事内容を知り、医療や福祉の中でのチームアプローチの必要性を理解する。
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 導入	オリエンテーション・導入(シラバスの説明、意味のある活動とは) 文献「 Pastaを作る」を読んで(ディスカッションを中心に作業を考える)
第2回	リハビリテーションとは	リハビリテーションを知る ～職種について考える・理学療法とは?～
第3回	作業療法の原理	作業療法を知る ～作業療法とは?・人と作業の関わり～
第4回	作業療法の原理	作業療法を知る ～作業療法の歴史について～
第5回	作業療法の原理	作業療法を知る ～その人らしい生活を実現するために(ICF・生活行為向上マネジメント)～
第6回	作業の実践	作業療法の実践 ～レクリエーション体験とその治療的意義について考える～
第7回	分野別作業療法	各分野の作業療法①
第8回	分野別作業療法	各分野の作業療法②
第9回	分野別作業療法	各分野の作業療法③
第10回	分野別作業療法	各分野の作業療法④
第11回	分野別作業療法	各分野の作業療法④
第12回	分野別作業療法	各分野の作業療法⑤
第13回	分野別作業療法	各分野の作業療法⑥
第14回	職種連携とは	職種連携を考える ～症例を通してそれぞれの視点で考える～
第15回	総合理解・まとめ	まとめ (本講義を通して理解したことを各グループにて発表)

評価方法	授業態度・出席状況・課題提出等をもって総合的に判断し、60点以上で履修を認定する
教科書	『リハビリテーション総論 改訂第3版』 椿原 彰夫
参考書	『標準作業療法学 作業療法概論 第3版』

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	理学療法概論 I		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	綾部 雅章	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	理学療法士の意義・役割を知り、職務内容を理解する。また、理学療法士になるために必要な努力は何かを知り、具体的に取り組んでいく道筋を作る。理学療法士に必要な基本的事項を学ぶ。今後の学習や実習及び医療従事者になるための動機付けを行う。
------	---

回	主題	内容
第1回	理学療法とは	オリエンテーション／理学療法と倫理・哲学
第2回	理学療法の歴史	理学療法とリハビリテーションの歴史
第3回	臨床実習とは	臨床実習の位置づけについて
第4回	理学療法の実際①	専任教員①
第5回	理学療法の実際②	専任教員②
第6回	理学療法の実際③	専任教員③
第7回	理学療法の実際④	専任教員④
第8回	理学療法の実際⑤	専任教員⑤
第9回	理学療法士及び作業療法士法	PT・OT法における理学療法
第10回	理学療法士及び作業療法士法	PT・OT法における理学療法
第11回	理学療法の基盤	ICF／根拠(evidence)
第12回	理学療法の基盤	ICF／根拠(evidence)
第13回	理学療法士に求められる要素①	求められる3つの領域
第14回	理学療法士に求められる要素②	認知領域／情意領域／精神運動領域
第15回	まとめ	前期講義のまとめ

評価方法	レポート1割、定期試験9割とし、総合で6割以上を合格とする。
教科書	理学療法概論 第7版 医歯薬出版株式会社
参考書	動画教材 ビジュランクラウド(医学映像教育センター)

理学療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	理学療法概論Ⅱ		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	綾部 雅章	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	理学療法士の意義・役割を知り、職務内容を理解する。また、理学療法士になるために必要な努力は何かを知り、具体的に取り組んでいく道筋を作る。理学療法士に必要な基本的事項を学ぶ。今後の学習や実習及び医療従事者になるための動機付けを行う。
------	---

回	主題	内容
第1回	理学療法評価(概論)	全体像の把握／評価手順
第2回	実習報告会	理学療法士の仕事・分野について学ぶ
第3回	理学療法評価①	各検査測定項目
第4回	理学療法評価②	各検査測定項目
第5回	理学療法の対象と治療手段①	身体運動機能と構成要素
第6回	理学療法の対象と治療手段②	各運動療法
第7回	理学療法の対象と治療手段③	各運動療法
第8回	理学療法の対象と治療手段④	各運動療法
第9回	理学療法の対象と治療手段⑤	運動学習について
第10回	まとめ	
第11回	理学療法と診療報酬①	医療保険および介護保険
第12回	理学療法と診療報酬②	医療保険および介護保険
第13回	理学療法と管理①	医療上の管理
第14回	理学療法と管理②	医療事故の防止
第15回	まとめ	

評価方法	受講状況及び定期試験の結果で60点以上を合格とする。
教科書	理学療法概論 第7版 医歯薬出版株式会社
参考書	PT・OTビジュアルテキスト 理学療法概論 第1版 羊土社 理学療法概論テキスト 改訂第3版 南江堂

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	理学療法概論演習		授業形態	演習・講義	使用教室	PT1/治療室2
講師	石堂優太／川口 貴史	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、実践を踏まえながら理解を促していく			

教育目標	1.理学療法士を目指す学生として必要な能力を理解する 2.骨や筋肉を体表から触診できる 3.身体動作・日常生活動作について理解できる
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	理学療法士の役割、身だしなみ、リスク管理、理学療法士に必要な能力
第2回	バイオメカニクス	バイオメカニクスの視点から動作を診る
第3回	バイオメカニクス	バイオメカニクスの視点から動作を診る
第4回	バイオメカニクス	バイオメカニクスの視点から動作を診る
第5回	触診	骨・筋の触診(総論) 触診方法や全体像の把握、方向について
第6回	触診	骨の解剖学的特徴の理解、骨・筋の触診(上肢 肩甲骨・鎖骨)
第7回	触診	骨の解剖学的特徴の理解、骨・筋の触診(上肢 上腕骨・橈骨・尺骨)
第8回	触診	骨の解剖学的特徴の理解、骨・筋の触診(上肢 手根骨・指骨)
第9回	触診	骨の解剖学的特徴の理解、骨・筋の触診(下肢 骨盤)
第10回	触診	骨の解剖学的特徴の理解、骨・筋の触診(下肢 大腿骨・膝関節周囲)
第11回	触診	骨の解剖学的特徴の理解、骨・筋の触診(下肢 足関節・足部周囲)
第12回	触診	骨の解剖学的特徴の理解、骨・筋の触診(体幹 胸郭に関連する組織)
第13回	触診	骨の解剖学的特徴の理解、骨・筋の触診(体幹 脊柱に関連する組織)
第14回	触診	姿勢の観察、骨を触るための指標(ランドマーク)の確認
第15回	まとめ	

評価方法	実技試験6割、定期試験4割とし、総合で6割以上を合格とする。 定期試験については60点以上を合格とする。実技試験が未受験の場合は不合格とする。 実技試験・定期試験どちらか一方が6割未満の場合は両者再試験を実施する。
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 (メジカルビュー社) 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 (メジカルビュー社) 理学療法評価学 改訂第6版 (金原出版)
参考書	基礎運動学 第6版 (医歯薬出版)、骨格筋の形と触察法 第2版 (大峰閣) プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版 (医学書院)

理学療法学科	1学年	後期	単位数	1	時間数	30
科目名	理学療法評価学 I		授業形態	演習／講義	使用教室	治療室1／PT1
講師	丸山 寿美恵	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	1.理学療法士を目指す学生として評価の重要性を学ぶ。 2.身体を構成する骨を体表から触診することができる。 3.身体動作・日常生活活動について理解することができる。 4.基本的な評価について意義目的を知り、実技を習得することができる。
------	--

回	主題	内容
第1回	理学療法における評価の位置づけ	理学療法評価とは(意義、目的、評価の過程)
第2回	理学療法における評価の位置づけ	理学療法評価とは(評価の対象、評価方法の種類、時期と目的)
第3回	理学療法における評価の位置づけ	一般的評価事項(情報収集:問診・観察・検査・測定)
第4回	バイタル測定	血圧とはリスク管理の理解 (評価実施上の留意事項、評価環境、評価器具)
第5回	バイタル測定	測定方法
第6回	形態測定	意義と目的、種類、注意事項 四肢長
第7回	形態測定	四肢周径
第8回	関節可動域測定	定義・目的／身体の基本的肢位と基本的運動方向 肩関節
第9回	関節可動域測定	肩・肘関節
第10回	関節可動域測定	前腕・手関節
第11回	関節可動域測定	股関節
第12回	関節可動域測定	股関節・膝関節
第13回	関節可動域測定	足関節および足部
第14回	関節可動域測定	体幹・頸部
第15回	まとめ	まとめ

評価方法	小テスト(1割)、実技試験(4割)、定期試験(5割)とし、総合で6割以上を合格とする。 ただし、実技試験・筆記試験どちらか一方が6割未満の場合、両者再試験とする。 実技試験・定期試験が未受験の場合は不合格とする。
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診技術-上肢- MEDICAL VIEW 運動療法のための機能解剖学的触診技術-下肢・体幹- MEDICAL VIEW 理学療法評価学 金原出版株式会社
参考書	基礎運動学 第6版 / プロメテウス解剖学コアアトラス

理学療法学科	1学年	後期	単位数	1	時間数	30
科目名	臨床技能演習 I		授業形態	演習／講義	使用教室	治療室1
講師	綾部雅章	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を講義に反映させている。			

教育目標	①理学療法概論演習で学んだ車椅子駆動介助、移乗介助方法について確認をする。 ②理学療法評価学で学んだ検査・測定を確認する。 ③臨床場面での介助や検査・測定のすすめ方、注意点を習得する。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 客観的臨床能力試験とは	オリエンテーション 客観的臨床能力試験とは
第2回	技能;レベル1(1)	標準予防策(スタンダードプレコーション) 「手指衛生、手袋・ガウン・ゴーグル・マスクの着脱」 リスク管理
第3回	技能;レベル1(2)	コミュニケーション技法
第4回	技能;レベル1(3)	車椅子の駆動介助
第5回	技能;レベル1(4)	車椅子の駆動介助
第6回	技能;レベル1(5)	移乗介助
第7回	技能;レベル1(6)	移乗介助
第8回	技能;レベル2(1)	脈拍・血圧測定
第9回	技能;レベル2(2)	形態測定
第10回	技能;レベル2(3)	形態測定
第11回	技能;レベル2(4)	関節可動域測定(上肢)
第12回	技能;レベル2(5)	関節可動域測定(上肢)
第13回	技能;レベル2(6)	関節可動域測定(下肢)
第14回	技能;レベル2(7)	関節可動域測定(下肢)
第15回	まとめ	

評価方法	実技試験6割、定期試験4割とし、総合で6割以上を合格とする。 実技試験・定期試験が未受験の場合は不合格とする。 実技試験・定期試験どちらか一方が6割未満の場合は両者再試験を実施する。
教科書	・PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版、金原出版株式会社
参考書	

理学療法学科	1学年	後期	単位数	1	時間数	30
科目名	運動療法Ⅰ		授業形態	講義・演習	使用教室	PT1・治療室1
講師	橋山 浩介	実務経験有	理学療法士として医療施設での臨床経験があり、その経験を活かし運動療法の基礎を伝える。			

教育目標	理学療法の基本となる運動療法の基礎を総論的に学習し、治療の理論や概念を理解する。運動療法の意義と目的を明確にし、リハビリテーション医学の中での位置づけを理解する。
------	---

回	主題	内容
第1回	運動療法総論	オリエンテーション／運動療法とは
第2回	理論と基本技術Ⅰ	関節可動域改善
第3回	理論と基本技術Ⅰ	関節可動域改善(実技)
第4回	理論と基本技術Ⅰ	関節可動域改善(実技)
第5回	理論と基本技術Ⅰ	関節可動域改善(実技)
第6回	理論と基本技術Ⅱ	ストレッチ
第7回	理論と基本技術Ⅱ	ストレッチ(実技)
第8回	理論と基本技術Ⅱ	ストレッチ(実技)
第9回	理論と基本技術Ⅱ	ストレッチ(実技)
第10回	理論と基本技術Ⅲ	筋力・筋持久力の改善
第11回	理論と基本技術Ⅲ	筋力・筋持久力の改善
第12回	理論と基本技術Ⅳ	体力の改善
第13回	理論と基本技術Ⅳ	体力の改善
第14回	理論と基本技術Ⅴ	バランスの獲得・改善
第15回	理論と基本技術Ⅴ	バランスの獲得・改善

評価方法	小テスト1割、実技試験2割、定期試験7割とし、総合で6割以上を合格とする。 実技試験が未受験の場合は不合格とし、実技試験が6割未満の場合は実技試験の再試験を実施する。
教科書	・Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学（メジカルビュー社）
参考書	・運動療法学 改訂第2版（金原出版） ・IDストレッチング 第2版（三輪書店）

理学療法学科	1学年	前期	単位数	1	時間数	15
科目名	体験学習		授業形態	演習	使用教室	PT1/姫野病院
講師	綾部 雅章	実務経験有	理学療法士として医療施設での臨床経験を活かし、現場のイメージを学生と共有し、体験学習をより充実させる			

教育目標	<p>1.施設の規則や時間の厳守、適切な言葉遣いができるなど社会人としての最低限のルールを守ることができる。</p> <p>2.理学療法士・作業療法士の1日の仕事の流れを知ることが出来る。</p> <p>3.リハビリテーション分野における仕事のやりがいを述べる事が出来る。</p> <p>4.デイリーノートに実習で経験したこと、学習したこと記録し、報告することが出来る。</p>
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	体験学習の位置づけと実習要綱の説明
第2回	体験学習準備	臨床現場見学における行動計画
第3回	施設における体験学習	理学療法士・作業療法士の1日の仕事の流れを知る
第4回	施設における体験学習	施設の規則や時間の厳守、適切な言葉遣いができるなどを学ぶ
第5回	施設における体験学習	様々なリハビリテーション場面を見学して疑問を持ち自己学習へと繋げる
第6回	施設における体験学習	デイリーノートに学習したことを記録し、報告する
第7回	オリエンテーション	実習終了後の提出物・書類の確認、お礼状の作成、グループ発表準備
第8回	報告会	体験してきた内容をグループでまとめ、報告する

評価方法	出席・実習成績・デイリーノート・報告会にて総合的に評価し、100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	なし
参考書	なし

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	運動系統学Ⅲ		授業形態	講義	使用教室	OT2
講師	岡 大樹	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、運動器疾患のリハビリテーションで学んだ解剖学知識を活用し指導している。			

教育目標	① 上肢および体幹に関し、1年次に学習した運動器を復習しながら各関節で起こる運動を学び説明できる ② 運動学を学び、疾患や作業療法との関連を理解する ③ 筋収縮の基礎的性質を理解する
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 総論(1)	オリエンテーション、概要 復習：身体運動の面と軸、関節運動
第2回	肩関節(1)	復習：身体運動の面と軸、関節運動 肩関節複合体、胸鎖関節と靭帯・運動、肩鎖関節と靭帯・運動
第3回	肩関節(2)	肩甲上腕関節と靭帯、第2肩関節、肩甲胸郭関節
第4回	肩関節(3)	上肢帯と肩関節での上腕の動き(肩甲骨の位置と動き、肩甲骨面と棘鎖角、肩関節の動き<肩甲上腕リズム、ゼロポジション>)
第5回	肩関節(4)	上肢帯と肩関節の運動に関わる筋(体表解剖、断層解剖も含む)
第6回	肩関節(5)	上肢帯と肩関節の運動に関わる筋(上腕二頭筋長頭腱、回旋筋腱板、腱板疎部)
第7回	肘関節(1)	肘関節および前腕の運動に関わる関節(腕尺関節、腕橈関節、上橈尺関節)
第8回	肘関節(2)	肘関節と前腕の動き (肘関節・前腕の運動、生理的外反肘、ヒューター線、ヒューター三角)
第9回	手関節・手(1)	手関節・手部の関節と運動(橈骨手根関節、手根中央関節)
第10回	手関節・手(2)	手関節・手部の関節と運動(手根中手関節、中手指節関節、指節間関節)
第11回	手関節・手(3)	第1～10回まとめ
第12回	手関節・手(4)	手指の運動(手指の関節：手根中手関節) (上肢の筋：主に手指の運動に関与する筋／手外在筋)
第13回	手関節・手(5)	手指の運動(上肢の筋(母指の運動に関与する筋／手外在筋)
第14回	手関節・手(6)	手指の関節(MP関節、IP関節) 手内在筋
第15回	手関節・手(7)	手を支配する末梢神経
第16回	手関節・手(8)	手のアーチ、手の把持動作パターン、手の基本的肢位(安静肢位、機能肢位)手の変形(指の伸展機構とその障害、他)
第17回	体幹(1)	体幹の運動 脊柱・頸椎の運動
第18回	体幹(2)	胸椎・胸郭の運動
第19回	体幹(3)	胸椎・胸郭の運動、腰椎の運動
第20回	姿勢	姿勢の分類、重心と重心線
第21回	頭部	顎関節、咀嚼運動とその筋、顔面運動とその筋
第22回	骨格筋	筋収縮の基礎的性質、筋収縮の様態
第23回	まとめ	まとめ

評価方法	定期試験については、60点以上を合格とする。 評価の割合は、小テストなど総合的に判定する。
教科書	・著者：中村隆一 他：基礎運動学 第6版補訂、医歯薬出版株式会社 ・標準理学療法学・作業療法学解剖学第5版 医学書院
参考書	・プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版、坂井建雄、医学書院 ・国試の達人 運動解剖生理学 ・筋骨格系のキネシオロジー 第3版

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	運動系統学Ⅳ		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	徳田 一貫	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	下肢を構成する運動器を身体運動の観点から統合することが出来る。 姿勢・歩行の概念と各運動器と関連性が統合できる。
------	---

回	主題	内容
第1回	股関節	股関節の靭帯
第2回	股関節	股関節の筋(二関節筋を含む)
第3回	股関節	股関節の筋(二関節筋を含む)
第4回	膝関節	膝関節の構造 大腿骨、脛骨、膝蓋骨の形状
第5回	膝関節	膝のアライメント(FTA・Q角・ミクリツ線) ころがり運動とすべり運動 終末強制回旋運動 ロッキング機構
第6回	膝関節	半月板について 膝関節の靭帯について①
第7回	膝関節	膝関節の靭帯について② 鷲足筋・大腿四頭筋・ハムストリングスなど
第8回	膝関節	膝関節の筋
第9回	股関節・膝関節	まとめ
第10回	足関節	距腿関節・距骨下関節の構成と靭帯
第11回	足関節	横足根関節、足根中足関節の構成と靭帯足底腱膜
第12回	足関節	足部の筋(外在筋と内在筋)
第13回	足関節	足部の支帯、足部のアーチ
第14回	足関節	まとめ
第15回	筋の総論	筋組織の種類と特徴/筋線維の種類
第16回	筋の総論	骨格筋の構造/筋収縮メカニズム/運動単位①
第17回	筋の総論	骨格筋の構造/筋収縮メカニズム/運動単位②
第18回	正常歩行	重心、立位姿勢の安定性に関わる要因、抗重力筋
第19回	正常歩行	身体的・心理的な前提条件/必要とされる能力について 歩行周期と各相について(ステップ、ストライド、歩隔、歩幅、歩行率)
第20回	正常歩行	歩行周期における用語の理解(従来の用語とランチョロスアミーゴ方式) 歩行周期の各相の特徴と役割
第21回	正常歩行	歩行周期における用語の理解(従来の用語とランチョロスアミーゴ方式) 歩行周期の各相の特徴と役割
第22回	正常歩行	歩行時の運動学的・運動力学的分析/歩行時の各関節の動き
第23回	正常歩行	歩行時の床反力 ロッカーファンクション 歩行時の筋活動

評価方法	定期試験については、60点以上を合格とする。 評価の割合は、小テスト、定期試験など総合的に判定する。
教科書	・著者；中村隆一 他：基礎運動学 第6版補訂、医歯薬出版株式会社 ・観察による歩行分析、医学書院 ・監訳；坂井建雄 他：プロメテウス 解剖学アトラス 第3版、医学書院 ・国試の達人2022 運動解剖生理学編、理学療法科学学会
参考書	・監修；林典雄：運動器疾患の機能解剖学に評価と解釈(下肢編)、運動と医学の出版社 ・編集；伊藤元 他、標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学、医学書院 ・著者；竹内義享 他：カラー写真で学ぶ 骨・関節の機能解剖、医歯薬出版株式会社 ・原著者；A.I.KAPANDJI：カパンジー機能解剖学Ⅱ 上肢、体幹・脊柱 原著第6版、医歯薬出版株式会社 ・原著者；Donald A.Neumann：筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版、医歯薬出版株式会社

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	神経系統学Ⅲ		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	高山 翔平	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、実体験してきた神経系の各種症候とその考え方を講義に活かしている。			

教育目標	①自律神経系の構造と機能を学び説明できる。 ②反射について学び説明できる。 ③感覚機能に関与する基本的な神経の機能解剖を学び、感覚障害を理解する基礎とする。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 末梢神経系(15)	オリエンテーション 自律神経系①<自律神経系とは>
第2回	末梢神経系(16)	自律神経系②<交感神経系、副交感神経系>
第3回	末梢神経系(17)	自律神経系の復習
第4回	反射(1)	反射とは、反射弓、単シナプス反射、多シナプス反射
第5回	反射(2)	脊髄反射①<伸張反射、α環>
第6回	反射(3)	脊髄反射②<相反抑制(Ia抑制)、自己抑制(Ib抑制)>
第7回	反射(4)	脊髄反射③<屈曲反射(逃避反射)>、脊髄反射の復習
第8回	反射(5)	表在反射、深部反射
第9回	反射(6)	反射の中間まとめ
第10回	反射(7)	姿勢反射・反応①<原始反射>
第11回	反射(8)	姿勢反射・反応②<原始反射>
第12回	反射(9)	姿勢反射・反応③<立ち直り反応、平衡反応>
第13回	反射(10)	反射の復習(国試)
第14回	感覚(1)	感覚とは、感覚の分類
第15回	感覚(2)	外皮①<皮膚の構造と機能、皮膚受容器、角質器、皮膚腺> 外皮の復習
第16回	感覚(3)	体性感覚① <表在感覚(皮膚感覚)および深部感覚の受容器>
第17回	感覚(4)	体性感覚②<体性感覚の神経路の復習①>
第18回	感覚(5)	体性感覚③<体性感覚の神経路の復習②>
第19回	感覚(6)	感覚障害<末梢神経系の障害、脊髄障害>
第20回	感覚(7)	特殊感覚①<視覚器①>
第21回	感覚(8)	特殊感覚②<視覚器②>
第22回	感覚(9)	特殊感覚③<視覚器③> 視覚器の復習(国試)
第23回	前期まとめ	

評価方法	・小テスト(1割)、定期試験(9割)にて総合的に判定し、60点以上を合格とする
教科書	・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版、医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版、医学書院 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA ・シンプル生理学改訂第8版、南江堂
参考書	

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	神経系統学Ⅳ		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	川口 貴史	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、実体験してきた神経系の各種症候とその考え方を講義に活かしている。			

教育目標	①感覚機能に関与する基本的な神経の機能解剖を学び、感覚障害を理解する基礎とする。 ②高次脳機能について学び説明できる。 ③運動機能に関与する基本的な神経の機能解剖を学び、随意運動が起こるメカニズムと運動異常を理解する。 ④脳画像の基礎について学び、障害との関連を理解する。
------	---

回	主題	内容
第1回	特殊感覚	オリエンテーション/特殊感覚①
第2回		特殊感覚②<平衡聴覚器②>
第3回		特殊感覚③<味覚器・嗅覚器>
第4回	高次脳機能	機能、ネットワーク
第5回		機能、ネットワーク
第6回	運動(1)	錐体路系がかかわる機能、錐体外路系がかかわる機能
第7回		錐体路系がかかわる機能、錐体外路系がかかわる機能
第8回	運動の異常(1)	運動麻痺
第9回	運動(2)	大脳基底核の機能
第10回		大脳基底核の機能
第11回	運動の異常(2)	不随意運動
第12回	運動(3)	小脳の機能
第13回		小脳の機能
第14回	運動の異常(3)	運動失調
第15回	運動、運動の異常 復習	復習
第16回	脳卒中回復メカニズム	神経可塑性、機能回復に影響する因子
第17回	睡眠と脳波	脳波とは、脳波の種類、睡眠の役割、睡眠の分類
第18回		睡眠と脳波の復習
第19回	脳画像	CT,MRIの基礎
第20回		CT,MRIの基礎
第21回		脳の解剖と画像のみえ方
第22回		脳の解剖と画像のみえ方
第23回	後期まとめ	

評価方法	・小テスト(1割)、定期試験(9割)にて総合的に判定し、60点以上を合格とする
教科書	・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版、医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版、医学書院 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA
参考書	・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版、医学書院 ・標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版、医学書院 ・絵でみる脳と神経～しくみと障害のメカニズム～ 第4版、医学書院

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	臓器系統学Ⅲ		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	大坪 健一	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次臓器系統学Ⅰ,Ⅱの知識を再確認し、国家試験に見合う知識を習得する。 ・国家試験が解答できるレベルが今学習の到達点とする。 ・各臓器に関する機能を説明できる。
------	--

回	主題	内容	
第1回	血液	血液の一般的性質について	VC:目で見える解剖と生理Vol.5血液
第2回	血液	赤血球とヘモグロビンについて	VC:目で見える解剖と生理Vol.5血液
第3回	血液	白血球と免疫について	VC:目で見える解剖生理Vol.5血液 VC:目で見える解剖生理Vol.14免疫
第4回	血液	白血球と免疫について	VC:目で見える解剖生理Vol.5血液 VC:目で見える解剖生理Vol.14免疫
第5回	血液	血液凝固と血漿蛋白について	VC:目で見える解剖と生理Vol.5血液
第6回	循環	心臓の構造について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第7回	循環	小テスト①/心臓の構造について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第8回	循環	心臓の機能について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第9回	循環	心筋の静止膜電位・活動電位について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第10回	循環	心電図について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第11回	循環	心ポンプ機能について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第12回	循環	心周期と心拍出について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第13回	循環	循環とリンパ循環について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第14回	循環	血圧について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第15回	循環	循環調節について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第16回	呼吸	呼吸器の構造について	VC:目で見える解剖生理Vol.6呼吸
第17回	呼吸	小テスト②/ガス交換について	VC:目で見える解剖生理Vol.6呼吸
第18回	呼吸	ガス交換と呼吸運動について	VC:目で見える解剖生理Vol.6呼吸
第19回	呼吸	肺気量と換気について	VC:目で見える解剖生理Vol.6呼吸
第20回	呼吸	呼気と吸気の組成について	VC:目で見える解剖生理Vol.6呼吸
第21回	呼吸	酸塩基平衡について	VC:目で見える解剖生理Vol.6呼吸
第22回	呼吸	呼吸の調節について	VC:目で見える解剖生理Vol.6呼吸
第23回	まとめ	小テスト③/前期講義まとめ	

評価方法	受講状況及び小テスト全3回(25%)と定期試験(75%)の結果、100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	貴邑 富久子/根来 英雄 南江堂 改訂第8版 シンプル生理学
参考書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第6版 動画教材ビジュランクラウド

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	臓器系統学Ⅳ		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	石田恭涼	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、リハビリ現場で遭遇しやすい臓器関連疾患を知る基礎として学ぶ。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次臓器系統学の知識を再確認し、国家試験に見合う知識を得る。 ・国家試験が解答できるレベルが今学習の到達点とする。 ・内科学・整形外科学・神経内科学の基礎となるように学習する
------	---

回	主題	内容
第1回	消化と吸収	胚葉・消化吸収の概要
第2回	消化と吸収	CT・MRI画像 消化管の運動と性質
第3回	消化と吸収	消化管の運動(口腔・胃)
第4回	消化と吸収	消化管の運動(腸管)
第5回	消化と吸収	消化酵素①
第6回	消化と吸収	消化酵素②
第7回	消化と吸収	消化酵素・吸収
第8回	消化と吸収	肝臓
第9回	栄養と代謝	栄養と代謝
第10回	栄養と代謝	糖質・脂質・タンパク質代謝
第11回	尿の生成と排泄	腎臓の構造
第12回	尿の生成と排泄	腎臓の働き
第13回	尿の生成と排泄	ネフロンと腎小体
第14回	尿の生成と排泄	ろ過と再吸収
第15回	尿の生成と排泄	膀胱
第16回	尿の生成と排泄	膀胱の働きと神経支配
第17回	生殖器	生殖器の構造
第18回	内分泌	ホルモン成分と名称一覧
第19回	内分泌	視床下部・下垂体ホルモン
第20回	内分泌	甲状腺・上皮小体ホルモン
第21回	内分泌	カルシウム代謝
第22回	内分泌	副腎ホルモン
第23回	内分泌	膵臓ホルモン

評価方法	小テスト2割、定期テスト8割とし、総合で6割以上を合格とする。
教科書	杉 晴夫 南江堂 改訂第4版 人体機能生理学 国試の達人(運動解剖生理学編)
参考書	標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版. 医学書院. 著 石澤光郎、富永淳 標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版. 医学書院. 著 野村巖

作成日：令和6年4月1日

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	内科学 I	授業の形態	講義		使用教室	視聴覚室
講師	井崎 義己				一般	

教育目標	総合病院や高齢者施設等での理学療法の経験を活かして総合的、体系的に講義を行う。また、長年にわたる教員経験から理学療法士・作業療法士に求められる内科疾患の基本的な症候や診察法、疾患について指導する。内科的疾患の原因や症状、治療法、予後、予防等について学習することで、疾病と障害、リハビリテーションとの関連についての理解を図る。
------	--

回	主題	内容
第1回	第2章 内科的診断と治療の実際 ①	・診断・鑑別診断の進め方 ・カルテの書き方 ・診察法
第2回	第2章 内科的診断と治療の実際 ②	・臨床検査 ・内科的治療
第3回	第3章 症候学①	・発熱 ・倦怠感 ・食思不振 ・悪心嘔吐 ・易感染性 ・意識障害
第4回	第3章 症候学②	・めまい ・浮腫むくみ ・レイノー現象 ・頭痛 ・リンパ腫腫脹 ・ショック
第5回	第4章 循環器疾患①	【第1回～第4回の小テスト】 ・循環器系の解剖生理
第6回	第4章 循環器疾患②	・循環器疾患の主な症候 ・循環器疾患の診断法
第7回	第4章 循環器疾患③	・循環器疾患各論(1)
第8回	第4章 循環器疾患④	・循環器疾患各論(2)
第9回	第5章 呼吸器疾患①	【第5回～第8回の小テスト】 ・呼吸器の解剖生理
第10回	第5章 呼吸器疾患②	・呼吸器疾患の症候と病態生理 ・臨床検査所見
第11回	第5章 呼吸器疾患③	・呼吸器疾患各論(1)
第12回	第5章 呼吸器疾患④	・呼吸器疾患各論(2)
第13回	第6章 消化管疾患①	【第9回～第12回の小テスト】 ・消化管の解剖生理
第14回	第6章 消化管疾患②	・消化管疾患の症候と病態生理 ・消化管疾患の検査法
第15回	第6章 消化管疾患③	・消化管疾患各論

評価方法	小テスト(30点)、定期試験(70点)の合計点で評価する。そのうち60点以上を合格とする。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版 医学書院
参考書	標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版、医学書院 『病気がみえる』シリーズ 医療情報科学研究所

作成日：令和6年4月1日

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	内科学Ⅱ	授業の形態	講義		使用教室	視聴覚室
講師	井崎 義己				一般	

教育目標	総合病院や高齢者施設等での理学療法の経験を活かして総合的、体系的に講義を行う。また、長年にわたる教員経験から理学療法士・作業療法士に求められる内科疾患の基本的な症候や診察法、疾患について指導する。内科的疾患の原因や症状、治療法、予後、予防等について学習することで、疾病と障害、リハビリテーションとの関連についての理解を図る。
------	--

回	主題	内容
第1回	第7章 肝胆膵疾患①	・肝臓, 胆嚢, 膵臓の解剖生理 ・肝胆膵疾患の検査法
第2回	第7章 肝胆膵疾患②	・肝胆膵疾患各論
第3回	第8章 血液・造血器疾患①	・血液の生理 ・血液の検査法
第4回	第8章 血液・造血器疾患②	・血液疾患の主な症候 ・血液疾患各論
第5回	第9章 代謝性疾患①	【第1回～第4回の小テスト】 ・代謝調節の仕組み
第6回	第9章 代謝性疾患②	・代謝性疾患各論
第7回	第10章 内分泌疾患①	・内分泌器官と分泌されるホルモンの解剖生理
第8回	第10章 内分泌疾患②	・内分泌疾患各論
第9回	第11章 腎・泌尿器疾患①	【第5回～第8回の小テスト】 ・腎・泌尿器系の解剖生理 ・腎疾患の症候と病態生理
第10回	第11章 腎・泌尿器疾患②	・腎, 泌尿器疾患各論
第11回	第12章 アレルギー疾患, 膠原病と類縁疾患, 免疫不全症①	・免疫系の働き
第12回	第12章 アレルギー疾患, 膠原病と類縁疾患, 免疫不全症②	・アレルギー疾患 ・膠原病 ・リウマチ性疾患 ・免疫不全症
第13回	第13章 感染症疾患①	【第9回～第12回の小テスト】 ・感染症総論(病原体・感染経路・感染予防等)
第14回	第13章 感染症疾患②	・感染症各論
第15回	第14章 リハビリテーションに必要な栄養学	・栄養素 ・消化吸収と代謝 ・代替栄養素 等

評価方法	小テスト(30点)、定期試験(70点)の合計点で評価する。そのうち60点以上を合格とする。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版 医学書院
参考書	標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版、医学書院 『病気がみえる』シリーズ 医療情報科学研究所

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	整形外科 I	授業の形態	講義		使用教室	講堂
担当講師	姫野 信吉 先生				一般	

教育目標	理学療法・作業療法に必要な整形外科の基礎と臨床を習得する。 国家試験に必要・最低限の知識を確実に習得する。
------	--

回	主題	内容
第1回	基礎	骨関節の構造
第2回	基礎	骨関節の生理、骨粗鬆症
第3回	基礎	骨折
第4回	基礎	筋肉の構造と生理
第5回	疾患	神経の構造と生理
第6回	疾患	神経筋疾患
第7回	疾患	末梢神経障害
第8回	疾患	炎症、感染
第9回	基礎	RA以外の関節炎
第10回	基礎	免疫
第11回	疾患	RA(1)
第12回	疾患	RA(2)
第13回	疾患	変形性関節症
第14回	疾患	腫瘍 やけど
第15回	疾患	拮抗筋の働きと制御

評価方法	定期試験、出席状況を踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	標準整形外科学 第15版、医学書院
参考書	

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	整形外科Ⅱ	授業の形態	講義		使用教室	講堂
担当講師	姫野 信吉 先生	一般				

教育目標	理学療法・作業療法に必要な整形外科の基礎と臨床を習得する。 国家試験に必要・最低限の知識を確実に習得する。
------	--

回	主題	内容
第1回	上肢疾患(1)	肩甲帯～肩
第2回	上肢疾患(2)	肩～肘
第3回	上肢疾患(3)	肘～手
第4回	上肢疾患(4)	手～指
第5回	下肢疾患(1)	股(1)
第6回	下肢疾患(2)	股(2)
第7回	下肢疾患(3)	膝(1)
第8回	下肢疾患(4)	膝(2)～下腿
第9回	下肢疾患(5)	足
第10回	脊椎疾患(1)	頸椎疾患
第11回	脊椎疾患(2)	腰椎疾患
第12回	脊椎疾患(3)	脊髄損傷
第13回	脊椎疾患(4)	脊髄損傷(1)
第14回	脊椎疾患(5)	脊髄損傷(1)
第15回	脊椎疾患(6)	脊髄損傷(2)

評価方法	定期試験、出席状況を踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	標準整形外科学 第15版、医学書院
参考書	

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	神経内科学 I	授業の形態	講義		使用教室	講堂
担当講師	上野 未貴 先生		一般			

教育目標	<p>本講義では、次の目標を設定する。</p> <p>1) 臨床実習に直結する内容を精査し、解説する。</p> <p>2) 各回に記された学習の主題と内容を予習し、疑問点の解決、講義でイメージ化し、理解する。</p> <p>3) 筋電図、脳波、画像検査など、検査と評価項目はPT/OTの必須で臨床実習に直結するためその意味を理解してもらう。</p>
------	--

回	主題	内容
第1回	序論;障害とリハビリプログラム	リハビリテーションの概念、障害の階層性、評価・治療プログラム、地域リハなど
第2回	中枢神経系の解剖と機能	神経の発達と加齢、CNS・PNSの解剖と機能、髄液、可塑性、歩行
第3回	神経学的診断と評価	診断の実際、体幹・四肢の診察と検査、障害の評価
第4回	神経学的検査法	画像診断、電気生理学的検査、髄液検査、血液生化学的検査
第5回	意識障害と頭痛	意識障害、脳死、植物状態、頭痛、めまい、失神
第6回	錐体路・錐体外路徴候	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮、錐体外路徴候、不随意運動
第7回	運動失調と感覚障害	運動失調の原因、分類、評価、リハビリ、感覚障害の分布と特徴
第8回	高次脳機能障害; 失語症	言語中枢の発達、局在、機能、失語症の診断、評価、リハビリ
第9回	高次脳機能障害; 失認と失行	失認の概念と分類、リハビリ、失行の概念と分類、リハビリ
第10回	高次脳機能障害; 認知症	記憶の分類、メカニズム、記憶障害、認知症の症状、病因、リハビリ
第11回	高次脳機能障害; 注意障害	注意障害の概念と分類、リハビリ
第12回	高次脳機能障害; 遂行機能障害	遂行機能障害の概念と分類、リハビリ
第13回	構音障害と嚥下障害	構音・嚥下障害の原因、診断と治療
第14回	脳神経外科領域の疾患	頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア
第15回	まとめ	

評価方法	定期試験、小テスト、出欠状況や授業態度などを総合して60点以上を合格とする。
教科書	神経内科学 第5版 川平編集 医学書院
参考書	病気がみえる 脳・神経 Vol 7 医療情報科学研究所 メディックメディア 絵でみる脳と神経 第3版 馬場編集 医学書院

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	神経内科学Ⅱ	授業の形態	講義		使用教室	講堂
担当講師	上野 未貴 先生		一般			

教育目標	<p>本講義の各論では、次の目標を設定する。</p> <p>1) 各種の疾患に直結する内容を精査し、解説する。</p> <p>2) 各論の各回に記された学習の主題と内容を予習し、疑問点の解決、講義でイメージ化し、理解する。</p> <p>3) 検査、評価、診断とリハビリ治療、PT/OT関連項目は臨床実習に直結するためその意味を理解してもらう。</p>
------	--

回	主題	内容
第1回	脳血管障害(CVA)Ⅰ	脳血管障害とは、症状と分類
第2回	脳血管障害(CVA)Ⅱ	脳血管障害の診断と治療
第3回	脳血管障害(CVA)Ⅲ	リハビリテーションの実際
第4回	認知症	認知症とは、鑑別診断、治療可能な認知症
第5回	脳腫瘍	脳腫瘍とは、脳腫瘍各論
第6回	外傷性脳損傷	外傷性脳損傷の概要、症状と治療
第7回	変性・脱髄疾患	変性・脱髄疾患の分類と症状
第8回	錐体外路の変性疾患	錐体外路変性疾患の定義、錐体外路疾患各論(Parkinson病/Parkinson症候群)
第9回	末梢神経障害とてんかん	末梢神経障害の分類と所見、てんかんとは、てんかんの診断と治療
第10回	筋疾患Ⅰ	進行性筋ジストロフィー
第11回	筋疾患Ⅱ	重症筋無力症、多発性筋炎(皮膚筋炎)、内分泌代謝性筋疾患、その他筋疾患
第12回	感染性疾患	神経系の感染、感染性疾患各論
第13回	中毒・栄養欠乏性の神経疾患	中毒性疾患の種類、栄養欠乏性の神経疾患
第14回	小児神経疾患	脳性麻痺、二分脊椎、Down 症候群、先天性代謝異常
第15回	まとめ	

評価方法	定期試験、小テスト、出欠状況や授業態度などを踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	神経内科学 第5版 川平編集 医学書院
参考書	病気がみえる 脳・神経 Vol 7 医療情報科学研究所 メディックメディア 絵でみる脳と神経 第3版 馬場編集 医学書院

理学療法学科	2学年	通期(前期)	単位数	4	時間数	60
科目名	精神医学		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	田才 葵	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を通して患者様の状態やなぜそのような症状が出るのかを伝える。			

教育目標	①精神科のみならず、医療に携わる中での精神医学の基礎知識を身につける。 ②理学療法士、作業療法士国家資格に必要な知識を習得する。 ③現在の精神科領域を知るとともに、現代社会と人の心理との関係を把握する。
------	---

【前期】

回	主題	内容
第1回	精神医学とは	オリエンテーション 精神医学の捉え方 成因と分類 意識とその障害
第2回	精神医学とは	注意障害と見当識の障害 知能とその障害 記憶とその障害
第3回	精神医学とは	知覚とその障害 思考とその障害
第4回	脳器質性精神疾患	小テスト①(範囲:第1~3回の内容) 脳機能の振り返り・概論
第5回	脳器質性精神疾患	中核症状・BPSD、MCI
第6回	脳器質性精神疾患	大脳皮質の変性疾患(アルツハイマー型認知症、ピック病)
第7回	脳器質性精神疾患	大脳皮質の変性疾患(Lewy小体型認知症)・血管性認知症 まとめ
第8回	統合失調症	小テスト②(範囲:第4~7回の内容) 統合失調症とは?(概論):動画を通して障害を理解する
第9回	統合失調症	疫学 精神症状の特徴 4つのA
第10回	統合失調症	基本症状 急性期・回復期
第11回	統合失調症	幻覚 妄想 陽性症状 陰性症状
第12回	気分障害	小テスト③(範囲:第8~11回の内容) 気分障害とは(概論)、うつ病について(成因、症状:意欲・行為の障害)
第13回	気分障害	うつ病について(症状:思考の障害、・身体症状、評価と状況要因)
第14回	気分障害	躁病 総論 症状と経過
第15回	気分障害	気分障害の治療薬と対応・まとめ

評価方法	定期試験で60点以上を合格とし、定期テスト8割、小テスト2割で評価する
教科書	標準理学療法・作業療法専門基礎分野 精神医学 第4版
参考書	なし

理学療法学科	2学年	通期(後期)	単位数	4	時間数	60
科目名	精神医学		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	田才 葵	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を通して患者様の状態やなぜそのような症状が出るのかを伝える。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科のみならず、医療に携わる中での精神医学の基礎知識を身につける。 ・理学療法士、作業療法士国家資格に必要な知識を習得する。 ・現在の精神科領域を知るとともに、現代社会と人の心理との関係を把握する。
------	---

【後期】

回	主題	内容
第16回	神経症性障害	神経症性障害について(疫学:意識・無意識について、発生機序)
第17回	神経症性障害	不安および恐怖を中心とする神経症性障害
第18回	神経症性障害	強迫を中心とする神経症性障害、ストレス関連障害 解離を中心とする神経症性障害
第19回	神経症性障害	身体表現性障害、治療について(治療の考え方、薬物・精神療法) まとめ
第20回	パーソナリティ障害	小テスト④(範囲:第16~19回の内容) パーソナリティ障害(概要;背景、症状、類型)
第21回	パーソナリティ障害	パーソナリティ障害(概要;背景、症状、類型) 行動の障害、性の障害、まとめ
第22回	生理的障害 (摂食障害・睡眠障害)	摂食障害・睡眠障害について(概要・症状・治療)
第23回	精神遅滞(知的障害)	小テスト⑤(範囲:第20~22回の内容) 精神遅滞(概要や類型:重症度における特徴など)
第24回	心理的発達の障害	発達障害とは 特異的発達障害(概要や各類型などの分類)
第25回	心理的発達の障害	広汎性発達障害(概要や各類型などの分類) その他の発達障害(ADHD・チックなど)、まとめ
第26回	てんかん	小テスト⑥(範囲:第23~25回の内容) てんかんについて(定義・概要・発作型による分類)、全般起始発作
第27回	てんかん	全般起始発作・焦点起始発作
第28回	てんかん	West・レンノックスガストー症候群・側頭葉てんかん 治療(薬物療法・てんかん患者への対応方法など)、まとめ
第29回	精神作用物質	精神作用物質・依存症について(概要・各用語の確認) アルコール関連障害(アルコール依存症の概要・離脱症状・治療)
第30回	精神作用物質	薬物関連障害(各種薬物の特徴と依存性・治療) まとめ

評価方法	受講状況及び定期試験(8割)・小テスト(2割)にて総合的に判定する。 定期試験については60点以上を合格とする。
教科書	標準理学療法・作業療法専門基礎分野 精神医学 第4版
参考書	なし

作成日：令和6年4月1日

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	小児科学		授業の形態	講義	使用教室	視聴覚室
講師	佐藤 歩		一般			

教育目標	国家試験に出題される項目に沿って学習し、それらを習得すること リハビリテーションの現場において必要な小児科学の一般知識を習得すること
------	---

回	主題	内容
第1回	新生児・未熟児疾患	小児期の区分 用語 新生児仮死 神経学的所見
第2回	先天異常と遺伝病	先天異常 遺伝疾患 先天奇形 など
第3回	循環器疾患	胎児循環と新生児循環 チアノーゼ 心不全
第4回	呼吸器系疾患	肺の発生 界面活性 呼吸器疾患の臨床症状
第5回	感染症・消化器疾患	小児の感染症 消化器疾患など
第6回	内分泌・代謝疾患	内分泌疾患 糖代謝異常など
第7回	免疫疾患と泌尿器疾患	免疫 アレルギー 膠原病 腎・泌尿器 生殖器疾患など
第8回	小児科学総論	小児の成長・発育と発達 栄養と摂食 保健
第9回	発生	生命の誕生と発生 胚葉の形成
第10回	神経系疾患(1)	中枢神経疾患、てんかん等
第11回	神経系疾患(2)	脳性麻痺の分類・原因
第12回	神経系疾患(3)	脊髄・末梢神経疾患
第13回	筋系疾患	筋ジストロフィーの種類と特徴
第14回	骨関節系疾患	小児の骨折の特徴 等
第15回	振り返り	まとめ

評価方法	2/3以上の出席を前提とします。期末の筆記試験を実施し、総合で60%以上の得点を合格とします。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学
参考書	

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	理学療法評価学Ⅱ		授業形態	演習/講義	使用教室	PT2・治療室1
講師	徳田一貫/綾部雅章	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	①理学療法における評価の目的、対象、また評価の進め方などについて学ぶ ②各検査・測定ごとに評価の目的、対象、評価方法を学ぶ ③各検査・測定項目のつながりと各疾患の評価を学ぶ
------	--

回	主題	内容
第1回	総論	オリエンテーション、評価の意義、目的、ICF
第2回	関節可動域測定	測定の意義と目的、測定方法と注意点の復習
第3回	筋力検査	筋力検査の目的と分類 粗大筋力検査、徒手筋力検査、測定器による評価、筋持久力検査
第4回	徒手筋力検査	意義・目的、判定基準、検査上の注意
第5回	徒手筋力検査	下肢(股関節 屈曲/屈曲・外転・外旋)
第6回	徒手筋力検査	下肢(股関節 外転/屈曲からの外転)
第7回	徒手筋力検査	下肢(股関節 内転/伸展)
第8回	徒手筋力検査	下肢(股関節 外旋/内旋)
第9回	徒手筋力検査	下肢(膝関節 屈曲/伸展)
第10回	徒手筋力検査	下肢(足関節 底屈/背屈と足の内がえし)
第11回	徒手筋力検査	下肢(足の内がえし/底屈を伴う足の外がえし)
第12回	徒手筋力検査	上肢(上肢帯筋力テストのインドロダクション/肩甲骨外転と上方回旋)
第13回	徒手筋力検査	上肢(肩甲骨 拳上/内転/下制と内転)
第14回	徒手筋力検査	上肢(肩甲骨 内転と下方回旋/広背筋)
第15回	徒手筋力検査	上肢(肩 屈曲/伸展/外転)
第16回	徒手筋力検査	上肢(肩 水平外転/水平内転/外旋/内旋)
第17回	徒手筋力検査	上肢(肘 屈曲/伸展、前腕 回外/回内)
第18回	徒手筋力検査	上肢(手関節 屈曲/伸展)
第19回	徒手筋力検査	体幹 伸展/骨盤拳上
第20回	徒手筋力検査	体幹 屈曲/回旋
第21回	徒手筋力検査	頭部 伸展/頸部 伸展/頭部 屈曲/頸部 屈曲
第22回	徒手筋力検査	片側胸鎖乳突筋を分離する屈曲/頸部回旋
第23回	徒手筋力検査	まとめ

評価方法	2/3以上の出席を必要とする。小テスト、実技試験、定期試験、総合で6割以上を合格とする。実技試験が未受験の場合は不合格とし、実技試験、定期試験のいずれか6割未満の場合は、定期試験、実技試験の再試験を実施する。
教科書	新・徒手筋力検査法 原著第10版 協同医書出版 理学療法評価学 改訂第6班補訂版 金原出版株式会社 図解 理学療法検査・測定ガイド 第2班 文光堂 運動療法のための機能解剖学触診技術-上肢- メジカルビュー 運動療法のための機能解剖学触診技術-下肢- メジカルビュー
参考書	プロメテウス解剖学コアアトラス

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	臨床技能演習Ⅱ		授業形態	演習・講義	使用教室	PT2・治療室1
講師	川口 貴史	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を講義に反映させている。			

教育目標	①運動療法で学んだ治療技術を臨床応用に向けて確認する。 ②物量療法で学んだ機器について臨床応用に向けて確認する。 ③理学療法評価学で学んだ検査・測定を確認する。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 客観的臨床能力試験とは	オリエンテーション 客観的臨床能力試験とは(復習)
第2回	技能;レベル2	脈拍測定、血圧測定
第3回	技能;レベル1	リスク管理「患者誤認防止、転倒予防、点滴管理、カテーテル管理」
第4回	技能;レベル1	リスク管理「患者誤認防止、転倒予防、点滴管理、カテーテル管理」
第5回	技能;レベル2	関節可動域測定(上肢:肩関節外転)
第6回	技能;レベル2	関節可動域測定(下肢:股関節外転)
第7回	技能;レベル2	関節可動域測定
第8回	技能;レベル2	関節可動域測定
第9回	技能;レベル2	形態測定(前腕周径)
第10回	技能;レベル2	形態測定(下肢長)
第11回	技能;レベル2	筋の触診
第12回	技能;レベル2	筋の触診
第13回	技能;レベル2	筋力測定(上肢)
第14回	技能;レベル2	筋力測定(上肢)
第15回	技能;レベル2	筋力測定(下肢)
第16回	技能;レベル2	筋力測定(下肢)
第17回	技能;レベル3	関節可動域運動
第18回	技能;レベル3	関節可動域運動
第19回	技能;レベル3	筋力増強運動
第20回	技能;レベル3	筋力増強運動
第21回	技能;レベル1	ホットパック実施の補助
第22回	技能;レベル2	ホットパック実施の補助
第23回	まとめ	まとめ

評価方法	実技試験6割、定期試験4割にて総合的に判定し、60点以上を合格とする。実技試験が未受験の場合は不合格とする。また、実技試験、定期試験どちらか一方が6割未満の場合は 両者再試験 を実施する。
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版、金原出版株式会社
参考書	

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	運動療法Ⅱ		授業形態	演習/講義	使用教室	PT2・治療室Ⅰ
講師	川口 貴史	実務経験有	理学療法士として医療施設での臨床経験があり、その経験を活かし運動療法の基礎を伝える。			

教育目標	①ストレッチングや関節モビライゼーションの概要を理解し、適切に実施できる ②理学療法の基本となる運動療法の基礎を総論的に学習し、治療の理論や概念を理解する。 運動療法の意義と目的を明確にし、リハビリテーション医学の中での位置づけを理解する。
------	--

回	主題	内容
第1回	関節可動域の改善	ストレッチング
第2回		ストレッチング
第3回		ストレッチング
第4回		ストレッチング
第5回	モビライゼーション	関節モビライゼーション
第6回		関節モビライゼーション
第7回		関節モビライゼーション
第8回		関節モビライゼーション
第9回		関節モビライゼーション
第10回		関節モビライゼーション
第11回	疾患別運動療法の概要	整形外科疾患の運動療法
第12回		整形外科疾患の運動療法
第13回		中枢神経疾患の運動療法
第14回		中枢神経疾患の運動療法
第15回		内部障害の運動療法
第16回		内部障害の運動療法
第17回	協調性機能	協調性機能と運動療法
第18回		協調性機能と運動療法
第19回	運動学習	運動学習と運動療法
第20回		運動学習と運動療法
第21回	総復習	ストレッチング
第22回		関節モビライゼーション
第23回		国家試験対策と総復習

評価方法	小テスト 1割 、実技試験 2割 、定期試験 7割 とし、総合で6割以上を合格とする。実技試験が未受験の場合は不合格とする。また、実技試験・定期試験どちらか一方が6割未満の場合は 両者再試験 を実施する。
教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学（メジカルビュー社）
参考書	運動療法学 改訂第2版（金原出版）、IDストレッチング 第2版 ゴールドマスターテキスト 運動療法学（メジカルビュー社）

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	物理療法		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	綾部 雅章	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物理的作用と生理的作用、機器の原理、適応と禁忌、リスク管理を学習する。 ・国家試験に必要な知識を習得する。 ・各種物理療法機器の基本的な操作を学習する。
------	---

回	主題	内容
第1回	総論	オリエンテーション/物理療法とは
第2回	総論	物理療法機器の紹介/鎮痛メカニズム
第3回	温熱療法	温熱療法とは
第4回	温熱療法	ホットパック
第5回	温熱療法	パラフィン
第6回	温熱療法	極超短波療法・超短波療法
第7回	温熱療法	超音波療法
第8回	温熱療法	温熱療法 実習
第9回	温熱療法	温熱療法 実習
第10回	寒冷療法	寒冷療法とは/寒冷療法の作用・効果
第11回	寒冷療法	各種寒冷療法の実際
第12回	まとめ	温熱療法/寒冷療法まとめ
第13回	水治療法	水治療法とは/水治療法の作用・効果
第14回	水治療法	各種水治療法の実際
第15回	電気刺激療法	電気刺激療法とは
第16回	電気刺激療法	経皮的電気神経刺激/神経筋電気刺激
第17回	電気刺激療法	干渉電流療法/機能的電気刺激
第18回	電気刺激療法	バイオフィードバックなど
第19回	まとめ	水治療法/電気刺激療法まとめ
第20回	牽引療法	牽引療法とは/牽引療法の作用・効果
第21回	牽引療法	牽引療法 実習
第22回	光線・振動刺激・衝撃波療法	光線療法とは/振動刺激療法とは/衝撃波療法とは
第23回	まとめ	

評価方法	受講状況及び定期試験の結果で60点以上を合格とする。
教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学 メジカルビュー社
参考書	標準理学療法学 専門分野 物理療法学 第5版 医学書院

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	日常生活活動		授業形態	講義	使用教室	PT2/治療室2
講師	丸山寿美恵	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、ADL指導を実施した内容を活かす。			

教育目標	①ADLの概念を理解し、説明できる ②ADLと障害やQOLとの関係が理解できる ③基本的なADL評価(動作観察・各種評価法)の内容を理解し、実施することができる
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 総論	ADLの概念/ADLと障害(ICF)
第2回	総論	ADLとQOL/理学療法にとってのADLの位置づけ
第3回	ADL評価とその実際①	ADL評価の目的/尺度/ポイント ADL評価の概要と評価法
第4回	ADL評価とその実際④	評価バッテリー
第5回	ADL評価とその実際④	機能的自立度評価法(FIM)
第6回	ADL評価とその実際④	機能的自立度評価法(FIM)
第7回	ADL評価とその実際④	機能的自立度評価法(FIM)
第8回	ADL評価とその実際③	機能的自立度評価法(FIM)
第9回	ADL評価とその実際③	Barthel index(BI)
第10回	ADL評価とその実際②	動作分析の視点/PT(動作の専門家としての視点)
第11回	基本動作①②	総論/起居動作
第12回	基本動作③④	床上移動・車いす移動/歩行
第13回	身の回り動作	食事動作/トイレ動作/入浴動作/整容動作/更衣動作
第14回	補装具	移動補助具(杖・松葉杖・車椅子)
第15回	補装具	移動補助具(杖・松葉杖・車椅子)

評価方法	2/3の出席を必要とする。 小テスト2割、定期試験8割の結果から総合的に判断し、60点以上を合格とする。
教科書	シンプル理学療法シリーズ 日常生活活動 改訂第3版 南江堂
参考書	

理学療法学科	2学年	後期	単位数	1	時間数	30
科目名	日常生活活動演習		授業形態	演習・講義	使用教室	治療室
講師	丸山寿美恵	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、動作観察やADL評価や指導を実施していた内容を活かし指導する。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患別のADL指導について学ぶ ・OSCEにて動作介助における臨床技能を獲得することができる。
------	---

回	主題	内容
第1回	身の回り動作	身の回り動作(食事・トイレ)/福祉用具
第2回	身の回り動作	身の回り動作(入浴/整容・更衣)/福祉用具
第3回	身の回り動作	福祉用具/自助具
第4回	疾患別ADL指導	脳卒中
第5回	疾患別ADL指導	関節リウマチ/大腿骨頸部骨折
第6回	OSCE(動作介助の仕方)	赤 1. ポジショニング
第7回	OSCE(動作介助の仕方)	赤 2. 起き上がり
第8回	OSCE(動作介助の仕方)	赤 3. 起立・着座
第9回	OSCE(動作介助の仕方)	実技確認
第10回	OSCE(動作介助の仕方)	赤 4. 移乗(自立支援)
第11回	OSCE(動作介助の仕方)	赤 4. 車いす駆動
第12回	OSCE(動作介助の仕方)	赤 5. 歩行
第13回	OSCE(動作介助の仕方)	実技確認
第14回	OSCE	更衣(上衣/下衣)
第15回	まとめ	実技練習

評価方法	2/3の出席を必要とする。 実技試験5割、定期試験5割とし、総合で6割以上を合格とする。 実技試験・定期試験どちらか一方が6割未満の場合は両者再試験を実施する。 実技試験、定期試験が未受験の場合、不合格とする。
教科書	青:PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 赤:PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 シンプル理学療法シリーズ 日常生活活動 改訂第3版 南江堂
参考書	なし

理学療法学科	2学年	前期	単位数	1	時間数	45
科目名	介護・体験実習		授業形態	実習	使用教室	舞風台/PT2
講師	川口 貴史	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、対象者との関わり方、基本的な検査方法の見学模倣を経験させることができる。			

教育目標	①学生としての心構えを身につける。 ②時間や規則を守る、体調管理ができる。 ③利用者様と職場スタッフとの人間関係をつくる。 ④報告・連絡・相談ができるようになる。 ⑤整理整頓ができる。 ⑥介護老人保健施設・サービス付き高齢者住宅の社会的な位置づけを理解する。 ⑦コミュニケーション能力の向上に努める。 ⑧見学を通して得られる情報を収集する。 ⑨記録を取り、提出することができる。
------	---

回	主題	内容
全体		
第1回	オリエンテーション	実習要綱説明
第2回	オリエンテーション	舞風台職員による施設説明
A班/B班/C班		
第3回	実習	舞風台にて実習を行う
第4回	実習	舞風台にて実習を行う
第5回	実習	舞風台にて実習を行う
第6回	実習	舞風台にて実習を行う
第7回	実習	舞風台にて実習を行う
第8回	実習	舞風台にて実習を行う
全体		
第9回	準備	発表準備
第10回	準備	発表準備
第11回	まとめ	実習内容について班ごとに発表
第12回	まとめ	実習内容について班ごとに発表
第13回	まとめ	実習内容について班ごとに発表
第14回	まとめ	実習内容について班ごとに発表
【後期】		
全体		
第15回	オリエンテーション	検査測定におけるオリエンテーション
第16回	オリエンテーション	検査測定におけるオリエンテーション
A班/B班/C班/D班		
第17回	検査測定	実習
第18回	検査測定	実習
第19回	検査測定	実習
第20回	検査測定	実習
第21回	検査測定	演習
第22回	検査測定	演習
第23回	検査測定	演習
第24回	検査測定	演習

評価方法	出席状況、教育目標の達成状況をもとに総合的に判断する。 後期に行われる「検査測定」の内容を含めて評価し、100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	なし
参考書	なし

理学療法学科	3学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	社会性向上セミナーⅡ		授業形態	講義	使用教室	講堂/視聴覚室
講師	(内部)綾部/丸山/石川/津留寄 その他 外部講師		一般			

教育目標	① 施設／対象者から選ばれる人材になる ② 個人の価値観／ビジョンを描くことができるようになる ③ 他者・社会に対する利他的考え、発想を磨く ④ 講義を通して自身の考えをまとめ、伝える力を身に付ける
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション／マインドフルネス	思考と感情(マインドフルネス瞑想の実施)／自己認識(ボディ・スキャン／ジャーナリング)
第2回	KRi COACHiNG①	自分軸を探る／知る(ライフのたね／Time Line)
第3回	KRi COACHiNG②	ポジションチェンジ・ステイト(グループ学習を通して考える)／タイムライン(未来ビジョン)
第4回	KRi COACHiNG③	障害受容について学び患者様の心理状況を理解したうえで患者様にとってのコーチになる
第5回	長期目的・目標① (自分を知り、目標を明確にする)	「12の力」で自分の強みと弱みを理解する。 「長目シート」で目標設定し、4観点で目標の目的を明確にする
第6回	長期目的・目標② (4観点を深め、目的を明確にする)	4観点が自分の腑に落ちるためのワーク 就職に必要となる「他者・無形」の視点をより深める
第7回	長期目的・目標③ (習慣形成)	「オープンウィンドウ64」で目標を達成するために必要な行動を明確にし、ルーティン行動とする
第8回	長期目的・目標④ (個人理念)	仕事における理念を考える。自分自身を見つめ直すことにより、それらを文章化することで、履歴書を書ける力を養う
第9回	アンガーマネジメント	怒りに対する正しい理解と自己理解の発展
第10回	就職力UPセミナー	履歴書作成から面接当日まで
第11回	印象力UPセミナー	相手に与える印象を積極的にコーディネートできるようになる
第12回	医療人としての心構え	医療人として大切なこと
第13回	医療人としての心構え	医療人として大切なこと
第14回	がん医療について	癌患者の現状と最先端治療
第15回	就職力UPセミナー まとめ	社会性向上セミナーⅡの振り返り(発表)

評価方法	それぞれのワークで実施した資料をまとめ、ポートフォリオを作成し、成果物とする。 出席状況、授業態度、レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする
教科書	なし
参考書	なし

作成日：令和 6年 4月 1日

理学療法学科	3学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	統計学	授業の形態	講義		使用教室	講堂
講師	高元 宗一郎 先生		一般			

教育目標	統計の基本的な考え方を理解し、表計算ソフトを利用して目的の統計量を計算し、目的に応じた表現方法を用いることができる。分析するデータに応じた仮説検定を正しく選択することができる。また、リハビリテーション分野での統計解析を行うことができる。
------	--

回	主題	内容
第1回	表計算ソフトの操作 統計学入門	表計算ソフトの操作確認 統計学とは、記述統計と推測統計(第1章)
第2回	統計データの種類とまとめ方	統計データの種類(第2章)
第3回	統計データの種類とまとめ方	統計データのまとめ方(第2章)
第4回	統計データの種類とまとめ方	統計データのグラフ表示(第2章)
第5回	確率と分布	確率、順列、組合せ、確率分布(第3章)
第6回	母集団・標本と推定	母集団と標本、推定(第4章))
第7回	各種検定	検定の基礎知識(第5章)
第8回	各種検定	1群の標本の検定(第5章)
第9回	各種検定	2群の標本の検定(第5章)
第10回	各種検定	3群以上の標本の検定(第5章)
第11回	各種検定	比率の検定(第5章)
第12回	各種検定	相関係数の検定(第5章)
第13回	リハビリテーション分野 の統計学	総合問題
第14回	リハビリテーション分野 の統計学	総合問題
第15回	まとめ	まとめ

評価方法	レポート提出状況及び期末試験を総合的に判定し、60点以上を単位認定とする。
教科書	『系統看護学講座 基礎分野 統計学(第7版)』高木晴良 著 医学書院
参考書	『統計学入門』 東京大学教養学部統計学教室 東京大学出版会

理学療法学科	3学年	後期	単位数	1	時間数	30
科目名	生理学演習	授業の形態	講義／演習		使用教室	講堂
講師	外部講師／橋山浩介		一般			

教育目標	1) リハビリテーションにおける薬理学・栄養学について理解する。 2) X線、CT、MRIの基礎を理解する。 3) 吸引の方法を理解する。 4) AEDの操作方法について理解する。 5) 心電図、スパイロメーター、筋電図など、定番の実習はPT/OTの必須項目で臨床実習に直結するため機器の使い方やその意味を理解してもらう。
------	---

回	主題	内容
第1回	薬理学／臨床薬理学	薬を理解するために必要な基礎知識／薬の概念と分類／薬の作用はどのように発揮されるか
第2回	薬理学／臨床薬理学	薬の作用に影響する因子／薬の使い方／各疾患の薬物療法
第3回	栄養学	主な病態の栄養管理／静脈・経腸栄養法
第4回	栄養学	リハビリテーションと栄養
第5回	画像の特徴と原理	単純X線、CT、MRI画像の特徴を基本原理を理解する。
第6回	単純X線、CT、MRI画像正常画像①	画像上での基本解剖と診かたを理解する。(頭部・頸部)
第7回	単純X線、CT、MRI画像正常画像②	画像上での基本解剖と診かたを理解する。(胸部・腹部・骨盤部)
第8回	単純X線、CT、MRI画像正常画像③	画像上での基本解剖と診かたを理解する。(骨軟部・脊椎・四肢関節)
第9回	救急救命 AED	
第10回	救急救命 AED	
第11回	吸引	
第12回	吸引	
第13回	実習Ⅰ	心電図、スパイロメーター、パルスオキシメータ、ハンドヘルドダイナモメータ
第14回	実習Ⅱ	心電図、スパイロメーター、パルスオキシメータ、ハンドヘルドダイナモメータ
第15回	まとめ	

評価方法	定期試験、実習レポートや授業態度などを総合して60点以上を合格とする。
教科書	ケアに使える画像のみかた
参考書	

作成日：令和6年4月1日

理学療法学科	3学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	理学療法管理学	授業の形態	講義		使用教室	PT3
講師	赤川 精彦 先生／堀下 誉晃 先生		一般			

教育目標	質の高いチーム医療を提供できるよう、社会保障制度の理解やその変化に素早く適応する対応力と、組織運営に関するマネジメント能力、また職業倫理や理学療法教育について学習する。
------	--

回	主題	内容
第1回	管理とは	医療・看護・リハビリテーションにおける管理学
第2回	管理/運営	診療報酬について
第3回	管理/運営	診療報酬と人件費
第4回	リスク管理について	医療の質的保証／医療の安全性／ヒューマンエラー
第5回	リスク管理について	理学療法・作業療法で起こり得る有害事象／クレーム対応
第6回	疾患別マネジメント	疾患別リスクマネジメント
第7回	職業倫理	職業倫理について
第8回	組織運営とマネジメント	病院分類と組織／組織と関連法規
第9回	組織運営とマネジメント	業務管理
第10回	組織運営とマネジメント	情報管理
第11回	キャリアデザイン	理学療法士・作業療法士のキャリアデザイン
第12回	社会保障制度とマネジメント	社会保障制度とは／介護保険とは
第13回	管理/運営	介護保険関連施設における管理・運営
第14回	疾患別・病期別マネジメント	介護老人保健施設におけるマネジメント
第15回	まとめ	本講義のまとめ

評価方法	定期試験、実習レポートや授業態度などを総合して60点以上を合格とする。
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法管理学 中山書店
参考書	

理学療法学科	3学年	通期(前期)	単位数	3	時間数	75(45)
科目名	理学療法評価学Ⅲ		授業形態	演習/講義	使用教室	PT3/治療室1
講師	丸山 寿美恵	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を講義に反映させている。			

教育目標	① 理学療法における評価の目的、対象、また評価の進め方などについて学ぶ。 ② 各検査・測定ごとに評価の目的、対象、評価方法を学ぶ。 ③ 各検査・測定項目のつながりと、各疾患の評価を学ぶ。
------	---

回	主題	内容
第1回	総論振り返り	理学療法評価の意義・目的/整形外科テスト
第2回	疼痛検査	痛みの分類、痛みの検査手順、評価法
第3回	検査測定(感覚検査)①	感覚検査の意義・目的、感覚の種類、検査上の注意点、検査の手順と器具
第4回	検査測定(感覚検査)②	検査法(表在感覚)
第5回	検査測定(感覚検査)③	検査法(深部感覚、複合感覚)、測定結果の記載法
第6回	検査測定(感覚検査)④	検査法(深部感覚、複合感覚)、測定結果の記載法
第7回	深部腱反射・病的反射①	深部反射
第8回	深部腱反射・病的反射②	深部反射、表在反射
第9回	深部腱反射・病的反射③	表在反射、病的反射
第10回	検査測定(平衡機能検査)①	バランスとは、平衡機能とバランスの違い、バランスに影響を与える要因、代表的なバランス検査
第11回	検査測定(平衡機能検査)②	バランスとは、平衡機能とバランスの違い、バランスに影響を与える要因、代表的なバランス検査
第12回	検査測定(筋緊張検査)①	筋緊張とは、筋緊張とその調整、筋緊張の異常
第13回	検査測定(筋緊張検査)②	筋緊張検査の実際
第14回	検査測定(片麻痺機能検査)①	はじめに、片麻痺の運動障害の特徴、片麻痺の運動機能に対する評価
第15回	検査測定(片麻痺機能検査)②	Brunnstrom テスト
第16回	検査測定(片麻痺機能検査)③	Brunnstrom テスト
第17回	検査測定(片麻痺機能検査)④	12段階式片麻痺機能検査
第18回	症例検討	動作分析(歩行を中心)
第19回	症例検討	動作分析(歩行を中心)/問題点の抽出
第20回	症例検討	問題点の抽出
第21回	症例検討	統合と解釈
第22回	症例検討	統合と解釈
第23回	まとめ	

評価方法	レポート課題1割、実技試験3割、定期試験6割とし、総合で6割以上を合格とする。 実技試験・定期試験のどちらか一方が6割未満の場合は、両者再試験とする。 実技試験・定期試験が未受験の場合は不合格とする。
教科書	・理学療法評価学 改訂第6版 金原出版 ・図解 理学療法検査測定ガイド 第2版 文光堂 ・PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 ・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編
参考書	

理学療法学科	3学年	通期(後期)	単位数	3	時間数	75(30)
科目名	理学療法評価学Ⅲ		授業形態	講義／演習	使用教室	PT3／治療室1
講師	丸山 寿美恵	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を講義に反映させている。			

教育目標	① 理学療法における評価の目的、対象、また評価の進め方などについて学ぶ。 ② 各検査・測定ごとに評価の目的、対象、評価方法を学ぶ。 ③ 各検査・測定項目のつながりと、各疾患の評価を学ぶ。
------	---

回	主題	内容
第1回	検査測定(姿勢反射検査)①	姿勢反射・反応
第2回	検査測定(姿勢反射検査)②	姿勢反射・反応
第3回	検査測定(姿勢反射検査)③	姿勢反射・反応
第4回	検査測定(協調性検査)①	協調性のある運動とは、運動失調とは
第5回	検査測定(協調性検査)②	運動失調の分類、運動失調検査の実際
第6回	検査測定(協調性検査)③	OSCE:運動失調検査
第7回	検査測定(片麻痺機能検査)①	脳卒中機能評価法(SIAS)
第8回	検査測定(片麻痺機能検査)②	脳卒中機能評価法(SIAS)
第9回	検査測定(片麻痺機能検査)②	OSCE:SIAS
第10回	検査測定(脳神経検査)①	脳神経とは、嗅、視、動眼、滑車、外転神経、三叉神経
第11回	検査測定(脳神経検査)②	顔面、内耳神経、舌咽、迷走、副、舌下神経
第12回	検査測定(脳神経検査)③	OSCE:脳神経検査(視野検査)
第13回	検査測定(高次脳機能検査)①	高次脳機能の定義と概要、失認・失行の評価
第14回	検査測定(高次脳機能検査)②	失語の評価、注意障害の評価
第15回	検査測定(高次脳機能検査)③	記憶障害、知的機能障害の評価、精神機能の概要と評価

評価方法	実技試験3割、定期試験7割とし、総合で6割以上を合格とする。 実技試験・定期試験のどちらか一方が6割未満の場合は、両者再試験とする。 実技試験・定期試験が未受験の場合は不合格とする。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 理学療法評価学 改訂第6版 金原出版 図解 理学療法検査測定ガイド 第2版 文光堂 PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編
参考書	

理学療法学科	3学年	前期	単位数	1	時間数	30
科目名	臨床運動学		授業形態	講義	使用教室	PT3
講師	石堂 優太	実務経験有	理学療法士として臨床で勤務した経験を活かし、授業へ反映する。			

教育目標	運動学の基礎知識をもとに動作がどのように行われているのか理解し、力学的に説明できるものであることを学ぶ。
------	--

回	主題	内容
第1回	力の合成と分解①	力の合成・分解の考え方
第2回	力の合成と分解②	力の合成・分解の考え方
第3回	生体におけるテコ	テコの考え方を生体に応用
第4回	重心の求め方, 重心の速度・加速度①	重心の考え方, 重心の速度・加速度の考え方
第5回	重心の求め方, 重心の速度・加速度②	重心の考え方, 重心の速度・加速度の考え方
第6回	床反力と重心加速度, 床反力作用点	力と重心の加速度関係, 身体に加わる床反力, COPとは, COPと基底面・重心位置の関係
第7回	関節モーメントと筋活動, 関節モーメントのパワー	関節モーメントとは, 力学的仕事
第8回	寝返り動作	寝返り動作(重心・床反力・筋活動に着目)
第9回	寝返り動作	寝返り動作(重心・床反力・筋活動に着目)
第10回	起き上がり動作	起き上がり動作(重心・床反力・筋活動に着目)
第11回	起き上がり動作	起き上がり動作(重心・床反力・筋活動に着目)
第12回	立ち上がり・着座	立ち上がり動作(重心・床反力・筋活動に着目)
第13回	立ち上がり・着座	立ち上がり動作(重心・床反力・筋活動に着目)
第14回	歩行	歩行動作(重心・床反力・筋活動に着目)
第15回	歩行	歩行動作(重心・床反力・筋活動に着目)

評価方法	紙面上の小テスト2割、定期試験8割にて総合で6割以上を合格とする(PC上での小テストを行うこともあるが成績には含まない)。2/3出席を必要とする。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎バイオメカニクス 第2版(医歯薬出版) ・動作分析臨床活用講座 (メジカルビュー社) ・観察による歩行分析(医学書院)
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版)

作成日：令和6年4月1日

理学療法学科	3学年	通年(前期)	単位数	4	時間数	60(30)
科目名	義肢装具学	授業の形態	講義		使用教室	視聴覚
担当講師	野中 昭彦 先生		一般			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・義肢装具の理解 ・義肢装具の種類、疾患との関係の理解
------	--

【前期】

回	主題	内容
第1回	装具総論	装具とは？
第2回	体幹装具(1)	体幹装具とは？
第3回	体幹装具(2)	体幹装具について知ろう
第4回	体幹装具(3)	装具の種類と疾患との関係
第5回	体幹装具(4)	装具の種類と疾患との関係
第6回	上肢装具(1)	上肢装具とは？
第7回	上肢装具(2)	上肢装具について知ろう
第8回	上肢装具(3)	装具の種類と疾患との関係
第9回	上肢装具(4)	装具の種類と疾患との関係
第10回	下肢装具(1)	下肢装具とは？
第11回	下肢装具(2)	下肢装具について知ろう
第12回	下肢装具(3)	装具の種類と疾患との関係
第13回	下肢装具(4)	装具の種類と疾患との関係
第14回	車イス	車イスについて知ろう
第15回	装具まとめ	まとめ

評価方法	定期試験、出席状況を踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	義肢装具のチェックポイント 第7版 医学書院
参考書	なし

作成日：令和6年4月1日

理学療法学科	3学年	通年(後期)	単位数	4	時間数	60(30)
科目名	義肢装具学	授業の形態	講義		使用教室	視聴覚室/講堂
担当講師	金子 凱 先生				一般	

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・義肢装具の理解 ・義肢装具の種類、疾患との関係の理解
------	--

【後期】

回	主題	内容
第1回	義肢総論	義肢とは？
第2回	義手(1)	義手とは？
第3回	義手(2)	義手とは？
第4回	義手(3)	義手の種類とチェックポイント等
第5回	義手(4)	義手の種類とチェックポイント等
第6回	義手(5)	義手の種類とチェックポイント等
第7回	義足(1)	義足とは
第8回	義足(2)	義足とは
第9回	義足(3)	義足の種類とチェックポイント等
第10回	義足(4)	義足の種類とチェックポイント等
第11回	義足(5)	義足の種類とチェックポイント等
第12回	義肢装具体験	体験実習
第13回	義肢装具体験	体験実習
第14回	義肢まとめ	まとめ
第15回	義肢まとめ	まとめ

評価方法	定期試験、出席状況を踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	義肢装具のチェックポイント 第7版 医学書院
参考書	なし

理学療法学科	3学年	前期	単位数	1	時間数	30
科目名	運動器障害理学療法学 I		授業形態	講義/演習	使用教室	PT3
講師	橋山浩介	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を講義に活かしている。			

教育目標	運動器疾患に対する病態を理解し、系統的な評価ならびに治療手技を選択することができる。
------	--

回	主題	内容
第1回	肩関節疾患	肩関節の機能解剖
第2回	肩関節疾患	肩関節周囲炎
第3回	肩関節疾患	肩関節周囲炎
第4回	肩関節疾患	肩関節周囲炎
第5回	肩関節疾患	腱板断裂
第6回	肩関節疾患	腱板断裂
第7回	肩関節疾患	腱板断裂
第8回	肘の疾患	肘関節の機能解剖
第9回	肘の疾患	上腕腕骨外側上顆炎
第10回	肘の疾患	上腕骨内側上顆炎
第11回	外傷	コンパートメント症候群
第12回	外傷	CRPS
第13回	脱臼	上肢
第14回	脱臼	下肢
第15回	まとめ	まとめ

評価方法	小テスト(1割)、定期試験(9割)にて判定し、総合6割以上を合格とする
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション (羊土社) ・病気が見える 運動器・整形外科学(MEDIC MEDIA) ・標準整形外科学 第14版 (医学書院)
参考書	理学療法ガイドライン など

理学療法学科	3学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	運動器障害理学療法学Ⅱ		授業形態	講義／演習	使用教室	PT3／治療室1
講師	徳田一貫	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を活かし授業に反映している。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主に上肢・下肢の運動器疾患について、疾患の特徴を理解する。 ・疾患に対する適切な評価を選択し、実施できる。 ・疾患のリスクを把握し、適切な治療を選択し実施できる。
------	--

回	主題	内容
第1回	変形性関節症	総論
第2回	変形性股関節症	概要
第3回	変形性股関節症	保存療法の理学療法
第4回	変形性股関節症	手術療法の理学療法
第5回	変形性股関節症	手術療法の理学療法、ADL指導
第6回	変形性股関節症	変形性股関節症の理学療法、実技
第7回	変形性膝関節症	概要
第8回	変形性膝関節症	保存療法の理学療法、講義
第9回	変形性膝関節症	保存療法の理学療法、実技
第10回	変形性膝関節症	手術療法の理学療法、講義
第11回	変形性膝関節症	手術療法の理学療法、実技
第12回	関節リウマチ	総論（診断基準など、関節症状、治療）
第13回	関節リウマチ	総論（診断基準など、関節症状、治療）
第14回	関節リウマチ	評価と理学療法
第15回	関節リウマチ	評価と理学療法、ADL指導
第16回	関節リウマチ	ADL指導
第17回	確認	
第18回	末梢神経損傷	総論、絞扼性神経障害（腕神経叢麻痺）
第19回	末梢神経損傷	胸郭出口症候群 特徴と理学療法
第20回	末梢神経損傷	絞扼性神経障害（橈骨神経、正中神経、尺骨神経）
第21回	末梢神経損傷	絞扼性神経障害（大腿神経、坐骨神経）
第22回	末梢神経損傷	理学療法/装具療法
第23回	まとめ	

評価方法	2/3出席を必要とする。 小テスト、定期試験の結果から総合的に60点以上を合格と判断する。
教科書	標準整形外科学 第13版 医学書院 病気が見える 運動器・整形外科学 MEDIC MEDIA ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション 羊土社
参考書	筋骨格系のキネシオロジー 医歯薬出版 プロメテウス解剖学アトラス 医学書院 ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション 羊土社 ここがポイント整形外科疾患の理学療法 金原出版 膝関節理学療法マネジメント メジカルビュー社 整形外科運動療法ナビゲーション（下肢） メジカルビュー社 多関節運動連鎖からみた変形性関節症の保存療法 全日本病院出版会

理学療法学科	3学年	後期	単位数	1	時間数	30
科目名	運動器障害理学療法Ⅲ		授業形態	講義/演習	使用教室	PT3/治療室2
講師	丸山 寿美恵	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	運動器疾患(半月板損傷、靭帯損傷、足関節捻挫、足部疾患)に対する病態を理解し、系統的な評価ならびに治療手技を選択することができる。 熱傷・小児疾患・骨端症については、国家試験レベルの知識を身に付ける。
------	---

回	主題	内容
第1回	膝関節疾患	膝関節の機能解剖 半月板損傷:概要、機能解剖、病態
第2回	膝関節疾患	半月板損傷:症状、診断所見、術式とプロトコールの違い
第3回	膝関節疾患	半月板損傷:理学療法評価・治療プログラム
第4回	膝関節疾患	前十字靭帯損傷:概要、機能解剖、病態、症状、診断所見
第5回	膝関節疾患	前十字靭帯損傷:理学療法評価・治療プログラム
第6回	膝関節疾患	その他靭帯損傷:病態と症状
第7回	膝関節疾患	その他靭帯損傷:評価・プログラムの違い
第8回	膝関節疾患	実技(整形外科テスト、その他治療)
第9回	足の疾患	足関節の機能解剖/足関節靭帯損傷
第10回	足の疾患	足関節靭帯損傷:評価・治療プログラム(実技も含む)
第11回	足の疾患	アキレス腱断裂、扁平足、外反母趾:病態、症状、評価、治療プログラム
第12回	熱傷	熱傷と理学療法:受傷範囲の評価、熱傷の分類 熱傷治療の経過と理学療法の関係、良肢位
第13回	熱傷	熱傷と理学療法:基本的理学療法
第14回	小児疾患	各小児疾患の概要
第15回	骨端症	各疾患の概要

評価方法	予習課題・小テスト2割、定期試験8割とし、総合60点以上を合格とする。
教科書	・ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション (羊土社) ・病気が見える 運動器・整形外科学(MEDIC MEDIA) ・標準整形外科学 第14版 (医学書院)
参考書	・筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版(医歯薬出版株式会社) ・理学療法ガイドライン など

作成日：令和6年4月1日

理学療法学科	3学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	運動器障害理学療法学Ⅳ		授業形態	演習/講義	使用教室	治療室/PT3
講師	田中 泰光		一般			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動器疾患における病態の基礎を理解する。 ・主に上肢・下肢の運動器疾患について、疾患の特徴を理解する。 ・疾患に対する適切な評価を選択し、リスクを把握した上で、適切な治療を選択できる。
------	---

回	主題	内容
第1回	高齢者の特徴	フレイル/サルコペニア
第2回	高齢者の特徴	骨粗鬆症の概要
第3回	骨折(総論)	骨折の分類、症状、合併症、骨折治癒の異常過程
第4回	骨折(総論)	小児の骨折、治療法、リハビリテーション
第5回	骨折各論	上肢の骨折(上腕骨近位端骨折)
第6回	骨折各論	上肢の骨折(橈骨遠位端骨折)
第7回	骨折各論	上肢の骨折(理学療法)、その他の骨折
第8回	骨折各論	下肢の骨折(大腿骨近位端部骨折)
第9回	骨折各論	下肢の骨折(理学療法)
第10回	骨折各論	下肢の骨折(その他の骨折)
第11回	骨折各論	脊柱・骨盤の骨折(脊椎圧迫骨折)
第12回	頸椎疾患	頸部の機能解剖
第13回	頸椎疾患	頸部疾患の概念
第14回	頸椎疾患	頸部疾患に対する評価と理学療法
第15回	頸椎疾患	頸部疾患に対する評価と理学療法
第16回	胸椎・胸郭疾患	側弯症の概念
第17回	胸椎・胸郭疾患	側彎症に対する評価と理学療法、装具療法
第18回	腰椎・骨盤疾患	腰椎の機能解剖
第19回	腰椎・骨盤疾患	腰痛症などの腰部・骨盤帯疾患の概念
第20回	腰椎・骨盤疾患	腰部疾患に対する評価と理学療法
第21回	腰椎・骨盤疾患	腰部疾患に対する評価と理学療法
第22回	腰椎・骨盤疾患	腰部疾患に対する評価と理学療法
第23回	腰椎・骨盤疾患	腰部疾患に対する評価と理学療法

評価方法	2/3出席を必要とする。 小テスト、授業態度、定期試験の結果から総合的に60点以上を合格と判断する。
教科書	標準整形外科学 第14版 医学書院 病気が見える 運動器・整形外科学 MEDIC MEDIA ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション 羊土社
参考書	筋骨格系のキネシオロジー 医歯薬出版 プロメテウス解剖学アトラス 医学書院 国試の達人 臨床医学編/理学療法編

理学療法学科	3学年	前期	単位数	1	時間数	30
科目名	神経障害理学療法 I		授業形態	講義	使用教室	PT3
講師	石堂 優太	実務経験有	理学療法士として勤務した臨床経験を活かし、疾患理解や理学療法のイメージ理解を促していく。			

教育目標	①疾患に関する機能解剖、病態生理を理解できる。 ②疾患に関する評価や治療内容といった理学療法プログラムについて理解し、説明できる。 ③国家試験レベルで問われる知識について、理解できる。
------	--

回	主題	内容
第1回	筋疾患 筋ジストロフィー	筋疾患総論 筋ジストロフィーについて
第2回	筋ジストロフィー	筋ジストロフィーについての評価・治療プログラム
第3回	多発筋炎・皮膚筋炎	多発筋炎・皮膚筋炎について
第4回	多発筋炎・皮膚筋炎	多発筋炎・皮膚筋炎の評価・治療プログラム
第5回	重症筋無力症	重症筋無力症について
第6回	重症筋無力症	重症筋無力症の評価・治療プログラム
第7回	脊椎・脊髄疾患	脊髄の解剖・機能、脊椎・脊髄疾患について
第8回	脊椎・脊髄疾患	脊椎・脊髄疾患の評価・治療プログラム
第9回	脊髄損傷	脊髄損傷について
第10回	脊髄損傷	脊髄損傷について
第11回	脊髄損傷	脊髄損傷の評価
第12回	脊髄損傷	脊髄損傷の評価
第13回	脊髄損傷	脊髄損傷に対する理学療法
第14回	脊髄損傷	脊髄損傷に対する理学療法
第15回	まとめ	授業全体のまとめ

評価方法	2/3出席を必要とする。 紙面上の小テスト2割、定期試験8割とし、総合で6割以上を合格とする(PCでの確認テストを行う場合もあるが成績には含まない)
教科書	病気がみえる 7 脳・神経 第2版 シンプル理学療法シリーズ 神経筋障害理学療法テキスト 改訂第3版 脊髄損傷理学療法マニュアル 第3版 神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ 改定第2版 ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション
参考書	

理学療法学科	3学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	神経障害理学療法Ⅱ		授業形態	講義/演習	使用教室	PT3/治療室
講師	川口 貴史	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を活かし、授業に反映している。			

教育目標	① 脳画像の特徴と病変の捉え方を理解する ② 脳血管障害の病型、頭部外傷の概念を理解し、治療と評価、理学療法につなげることができる ③ 急性期治療と理学療法の役割を理解する ④ 高次脳機能障害、摂食・嚥下障害に対する理学療法の考え方を理解する
------	--

回	主題	内容
第1回	総論	オリエンテーション 中枢神経の構造
第2回		中枢神経の構造と脳画像
第3回	脳血管障害とは	脳の構造と機能: 脳動脈、神経路の構造
第4回	脳卒中の回復メカニズム	神経可塑性、脳卒中後の機能回復に影響する因子
第5回	脳血管障害の診断	NINDSの分類、 病型の理解と画像診断: 脳出血
第6回		くも膜下出血
第7回		
第8回		
第9回		脳梗塞
第10回		
第11回	頭部外傷	疾患概念、定義と重症度分類、画像所見
第12回		頭部外傷の治療、理学療法
第13回	急性期治療と理学療法	急性期とは、早期離床、急性期予後予測、
第14回		急性期から行う運動機能改善のための理学療法
第15回	高次脳機能障害と理学療法	身体失認、病態失認
第16回		失行、意識、失語など
第17回		半側空間無視
第18回		姿勢定位障害: Pusher現象、Lateropulsion
第19回	脳卒中患者の評価	理学療法評価の実際
第20回		
第21回	嚥下・摂食障害	概要の理解とアプローチ
第22回	前期まとめ	総復習
第23回		ケーススタディ

評価方法	小テスト(1割)、定期試験(9割)を総合的に判定し、60点以上を合格とする。
教科書	神経筋障害理学療法テキスト 改定第3版、南江堂 病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA
参考書	リハに役立つ脳画像 MEDICAL VIEW 標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版、医学書院 脳卒中ガイドライン2015.2021 脳卒中理学療法の理論と技術 第4版 MEDICAL VIEW

作成日：令和6年4月1日

理学療法学科	3学年	後期	単位数	1	時間数	30
科目名	神経障害理学療法Ⅲ		授業形態	講義	使用教室	PT3
講師	橋山浩介		実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を講義に生かしている		

教育目標	①脳血管障害の理学療法の考え方を理解する。 ②脳血管障害の回復期理学療法について学ぶ。 ③脳血管障害の身体機能、生活機能、合併症とその対策について学ぶ。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション脳血管障害	オリエンテーション 脳血管障害の理学療法の考え方
第2回	脳血管障害の理学療法(1)	理学療法、運動療法の内容と考え方
第3回	脳血管障害の理学療法(2)	回復期理学療法(重症片麻痺例)
第4回	脳血管障害の理学療法(3)	回復期理学療法(重症片麻痺例)
第5回	脳血管障害の理学療法(4)	回復期理学療法(重症片麻痺例)
第6回	脳血管障害の理学療法(5)	回復期理学療法(軽症片麻痺例)
第7回	脳血管障害の理学療法(6)	回復期理学療法(軽症片麻痺例)
第8回	脳血管障害の理学療法(7)	回復期理学療法(軽症片麻痺例)
第9回	脳血管障害の理学療法(8)	日常生活における身体機能の活用(生活機能の向上)
第10回	脳血管障害の理学療法(9)	日常生活における身体機能の活用(生活機能の向上)
第11回	脳血管障害の理学療法(10)	日常生活における身体機能の活用(生活機能の向上)
第12回	脳血管障害の理学療法(11)	<実習>片麻痺患者の基本動作、移乗・歩行動作の介助方法
第13回	脳血管障害の理学療法(12)	片麻痺患者にみられる合併症とその対策
第14回	脳血管障害の理学療法(13)	片麻痺患者にみられる合併症とその対策
第15回	まとめ	

評価方法	定期試験において、60点以上を合格とする
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・神経筋障害理学療法学テキスト 改定第3版、南江堂 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・絵でみる脳と神経～しくみと障害のメカニズム～ 第4版、医学書院 ・標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第2版、医学書院 ・【追補2019対応】脳卒中ガイドライン2015 ・理学療法テキスト 神経障害理学療法Ⅱ、中山書店

理学療法学科	3学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	神経障害理学療法Ⅳ		授業形態	講義	使用教室	PT3
講師	石堂 優太	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験を活かし、疾患や理学療法をイメージできるよう理解を促していく			

教育目標	① 疾患に関する機能解剖と病態生理を理解する ② 疾患に対する基本的な理学療法の流れ、評価、治療プログラムの進め方について学ぶ ③ 国家試験出題範囲内容の理解を深める
------	---

回	主題	内容
第1回	筋萎縮性側索硬化症	神経変性疾患とは、筋萎縮性側索硬化症とは
第2回	筋萎縮性側索硬化症	筋萎縮性側索硬化症とは
第3回	筋萎縮性側索硬化症	筋萎縮性側索硬化症とは
第4回	筋萎縮性側索硬化症	筋萎縮性側索硬化症の評価・理学療法プログラム
第5回	筋萎縮性側索硬化症	筋萎縮性側索硬化症の評価・理学療法プログラム
第6回	パーキンソン病	パーキンソン病について
第7回	パーキンソン病	パーキンソン病について
第8回	パーキンソン病	パーキンソン病以外の大脳基底核変性疾患
第9回	パーキンソン病	パーキンソン病の評価・治療プログラム
第10回	パーキンソン病	パーキンソン病の評価・治療プログラム
第11回	脊髄小脳変性症	脳幹・小脳の構造と機能
第12回	脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症とは
第13回	脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症とは
第14回	脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症の評価・治療プログラム
第15回	脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症の評価・治療プログラム
第16回	多発性硬化症	脱髄疾患とは、多発性硬化症とは
第17回	多発性硬化症	脱髄疾患とは、多発性硬化症とは
第18回	多発性硬化症	多発性硬化症の評価・治療プログラム
第19回	Guillain-Barre症候群	末梢神経障害とは、Guillain-Barre症候群とは、Charcot-Marie-Tooth病とは
第20回	Guillain-Barre症候群	末梢神経障害とは、Guillain-Barre症候群とは、Charcot-Marie-Tooth病とは
第21回	Guillain-Barre症候群	末梢神経障害の評価・治療プログラム
第22回	まとめ	第1回～11回のまとめ
第23回	まとめ	第12回～23回のまとめ

評価方法	定期試験8割、小テスト2割で評価し、定期試験については、6割以上を合格とする。2/3出席を必要とする。
教科書	病気がみえる 脳・神経 第2版 神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ 改定第2版 ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション
参考書	絵で見る脳と神経～しくみと障害のメカニズム～ 第3版 神経筋理学療法学テキスト 改訂第3版、南江堂

作成日：令和 6年 4月 1日

理学療法学科	3学年	前期	単位数	1	時間数	30
科目名	内部障害理学療法 I		授業形態	演習・講義	使用教室	治療室/PT3
講師	大坪健一・大野航輝	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、内部疾患の理学療法に携わった経験を授業に反映させている。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・内部障害疾患の特徴を理解する。 ・内部障害疾患に対する理学療法を習得する。
------	---

回	主題	内容
第1回	内部障害総論(大坪)	内部障害理学療法の必要性、効果
第2回	運動生理学(大坪)	運動生理学について
第3回	運動処方(大坪)	運動処方
第4回	運動処方(大坪)	運動処方
第5回	心臓リハビリテーション(大坪)	心臓リハビリテーションについて
第6回	心疾患各論(大野)	心電図
第7回	心疾患各論(大野)	不整脈の理解と心リハ
第8回	心疾患各論(大野)	臨床における運動生理学の重要性について
第9回	心疾患各論(大野)	臨床における運動負荷試験(CPX)について
第10回	心疾患各論(大野)	虚血性心疾患の理解と心リハ
第11回	心疾患各論(大野)	虚血性心疾患の理解と心リハ
第12回	心疾患各論(大野)	虚血性心疾患の理解と心リハ
第13回	心疾患各論(大野)	心不全の理解と心リハ
第14回	心疾患各論(大野)	心不全の理解と心リハ
第15回	心疾患各論(大野)	心不全の理解と心リハ

評価方法	小テスト(20%)定期試験(80%)の結果、60点以上を合格とする。
教科書	解良武士・椿淳裕編 Crocslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学
参考書	解剖学、生理学、運動学、病理学の各教科 (動画教材) VISUAL-LEARN

理学療法学科	3学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	内部障害理学療法学Ⅱ		授業形態	講義/演習	使用教室	PT3/治療室1
講師	徳田一貫・大野航輝(非常勤)他	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、内部疾患の理学療法に携わった経験を授業に反映させている。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・内部障害疾患の病態、症状を理解する。 ・内部障害疾患に対する評価、理学療法について習得する。
------	--

回	主題	内容
第1回	呼吸器疾患(大野)	呼吸器疾患:解剖
第2回	呼吸器疾患(大野)	呼吸器疾患:解剖
第3回	呼吸器疾患(大野)	呼吸器疾患:生理
第4回	呼吸器疾患(大野)	呼吸器疾患:生理
第5回	呼吸器疾患(大野)	呼吸器疾患:評価
第6回	呼吸器疾患(大野)	呼吸器疾患:評価
第7回	呼吸器疾患(大野)	呼吸器疾患:治療
第8回	呼吸器疾患(大野)	呼吸器疾患:COPD
第9回	呼吸器疾患(大野)	呼吸器疾患:COPD
第10回	呼吸器疾患(大野)	呼吸器疾患:まとめ
第11回	代謝性疾患(徳田)	メタボリックシンドローム
第12回	代謝性疾患(徳田)	糖尿病
第13回	代謝性疾患(徳田)	糖尿病と合併症
第14回	代謝性疾患(徳田)	糖尿病と合併症
第15回	代謝性疾患(徳田)	運動療法
第16回	血管疾患について(徳田)	動脈硬化症、静脈疾患について
第17回	腎疾患(徳田)	腎疾患と障害について
第18回	腎疾患(徳田)	腎疾患の理学療法について
第19回	腎疾患(徳田)	透析患者の理学療法について
第20回	がんのリハビリテーション(伊藤)	がんの病態生理
第21回	がんのリハビリテーション(伊藤)	がんの理学療法
第22回	がんのリハビリテーション(伊藤)	がんの理学療法
第23回	がんのリハビリテーション(伊藤)	がんの理学療法

評価方法	小テスト(20%)定期試験(80%)の結果、60点以上を合格とする。
教科書	解良武士・椿淳裕編 Crocslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学
参考書	解剖学、生理学、運動学、病理学の各教科書 (動画教材) VISUAL-LEARN

作成日：令和6年4月1日

理学療法学科	3学年	後期	単位数	1	時間数	30
科目名	小児理学療法学	授業の形態	講義		使用教室	PT3
講師	加賀良 健太		一般			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小児期リハビリテーション・理学療法の特徴を理解する。 ・小児期の代表疾患と理学療法の基本的な考え方について理解する。
------	--

回	主題	内容
第1回	反射・反応	原始反射・立ち直り反応・平衡反応
第2回	反射・反応	原始反射・立ち直り反応・平衡反応の国家試験問題
第3回	運動発達	12ヵ月までの運動発達とその特徴
第4回	姿勢反射と運動発達	(異常)姿勢反射と運動発達・運動発達検査法
第5回	脳性麻痺概論	脳性麻痺の定義、タイプ、原因
第6回	脳性麻痺各論	痙直型四肢麻痺
第7回	脳性麻痺各論	痙直型両麻痺
第8回	脳性麻痺各論	痙直型片麻痺
第9回	脳性麻痺各論	アトーゼ型四肢麻痺
第10回	脳性麻痺の評価、各論	発達検査・日常生活および能力障害の評価、ケーススタディ
第11回	重症心身障害	重症心身障害児(者)の病態と臨床像、評価、治療
第12回	子どもの遺伝性疾患	進行性筋ジストロフィーの病態と臨床像、評価、治療
第13回	二分脊椎症	二分脊椎症の病態と臨床像、評価、治療
第14回	小児整形疾患	小児整形疾患の概要
第15回	知的障害・発達障害	ダウン症・ADHD・自閉症スペクトラム・LD

評価方法	出席・授業態度・小テスト・定期試験の結果、60点以上を合格とする。
教科書	シンプル理学療法シリーズ 小児理学療法学テキスト 南江堂
参考書	

作成日：令和6年4月1日

理学療法学科	3学年	前期	単位数	1	時間数	30
科目名	理学療法技術論		授業形態	演習/講義	使用教室	PT3/治療室
講師	田中 泰光	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、整形外科領域で培った経験を授業に反映している。			

教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士の対象を確認し、臨床におけるICFの捉え方を知る 2. ヒトの動作原理、立ち上がりと歩行の観察法、3大機能評価の臨床的工夫を知る 3. 代表的整形外科下肢疾患の症例検討を通して障害像を画く
------	--

回	主題	内容
第1回	PTの対象と臨床ICFの捉え方	PTの対象確認と難易度順位付け、心身機能構造と活動との関係性
第2回	人と地球と生体力学①	重心、床反力作用点、床反力、関節モーメント、姿勢①
第3回	人と地球と生体力学②	重心、床反力作用点、床反力、関節モーメント、姿勢②
第4回	立ち上がり動作の観察と分析	殿部離床時のブレーキ機能を生体力学的に捉える
第5回	歩行動作の観察	生体力学を基準とした歩行観察と観察初期導入の心得
第6回	歩行動作の分析	歩行観察→分析→機能評価項目の選択→障害予測
第7回	機能評価①:ROM	臨床的な基本軸は架空軸ではなく実在軸で採ろう
第8回	機能評価②:MMT	MMT3の定義は地球のどこでも世界共通基準にて
第9回	機能評価③:形態測定	骨指標の採り方と測定時の一工夫
第10回	整形下肢疾患の紹介①	大腿骨頸部骨折と大腿骨転子部骨折の評価と運動療法
第11回	整形下肢疾患の紹介②	変形性股関節症とTHAの評価と運動療法
第12回	整形下肢疾患の紹介③	変形性膝関節症とTKAの評価と運動療法
第13回	下肢疾患症例検討案内	グループ発表の内容・スライド作成法・文献引用法等の説明
第14回	グループ症例検討発表	1グループ7分間×9班の症例検討発表(録音スライドにて)
第15回	発表フィードバック	班ごとに発表フィードバックを行い症例検討時の要点を確認

評価方法	期末テスト+グループ発表、授業時グループおよび個人発表の結果、60点以上を合格とする。
教科書	都度紹介
参考書	都度紹介

理学療法学科	3学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	臨床技能演習Ⅲ		授業形態	演習/講義	使用教室	治療室1/PT3
講師	橋山浩介	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を広義に反映させる。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1.2年次に学んだ評価技術を振り返り臨床で応用できる知識・技術を身につける。 ・1.2年次に学んだ治療技術を振り返り臨床で応用できる知識・技術を身につける。 ・各疾患で学んだ知識を振り返り臨床で応用できる評価・治療技術を身につける。
------	---

回	主題	内容
第1回	脈拍と血圧の測定	脈拍測定、血圧測定
第2回	関節可動域測定	上肢：肩関節外転、下肢：股関節屈曲
第3回	筋力測定	上肢：肩関節屈曲、下肢：股関節外転
第4回	形態測定	下肢長、前腕周径
第5回	感覚検査	触覚検査
第6回	反射検査	腱反射(上腕二頭筋、上腕三頭筋、膝蓋腱、アキレス腱)
第7回	反射検査	病的反射(バビンスキー、ホフマン、トレムナー)
第8回	関節可動域運動	肩関節屈曲
第9回	筋力増強運動	股関節外転
第10回	移乗	車いすからベッド、非麻痺側回り
第11回	肩関節の構造と病態	腱板の機能解剖、肩腱板断裂の病態、肩関節周囲炎、骨折など
第12回	整形外科疾患別検査①	OSCE: drop arm test
第13回	振り子運動	OSCE: 振り子運動
第14回	腰椎の構造と病態	腰椎の機能解剖、腰椎椎間板ヘルニアの病態について
第15回	整形外科疾患別検査②	OSCE: 下肢伸展挙上テスト
第16回	部分荷重練習	部分荷重練習とは
第17回	部分荷重練習②	OSCE: 部分荷重練習
第18回	呼吸練習①	呼吸リハビリテーションとは、安楽姿勢
第19回	呼吸練習②	呼吸法、リスク管理、手順のポイント
第20回	呼吸練習③	OSCE: 呼吸練習
第21回	排痰手技①	気道分泌物の貯留部位評価、排痰手技、スクイーピング
第22回	排痰手技②	咳嗽、咳嗽介助手技、リスク管理
第23回	排痰手技③	OSCE: 排痰手技

評価方法	実技試験6割、定期試験4割にて総合的に判定し、6割以上を合格とする。実技試験が未受験の場合は不合格とし、実技試験が6割未満の場合は実技試験の再試験を実施する。
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版、金原出版株式会社 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 金原出版株式会社
参考書	

理学療法学科		3学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	地域リハビリテーション		授業の形態	講義		使用教室	PT3
担当講師	松下泰輔／藤本慎治／大森岬貴			一般			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域リハビリテーションへの理解を深める ・理学療法士が関わる制度を知り、必要時に関連事項を想起できる。 ・さまざまな活動の場、内容を知り、捉え方を学ぶ。
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 地域リハビリテーションへの導入	地域リハビリテーション概要、ICFなど
第2回	介護保険概要	社会保障とは 介護保険に関わる時にしていること
第3回	地域包括ケアシステムとは	地域での 理学療法士の活動① リハビリテーションに関わる社会のしくみ
第4回	うきは市でのPT・OT・STの活動 行政との関わり	地域での理学療法士の活動② 理学療法士が行政と連携し提供できること
第5回	地域支援事業	地域での理学療法士の活動③
第6回	訪問リハビリテーション	介護保険サービス下でのリハビリテーション① 在宅へのリハビリテーション介入
第7回	通所リハビリテーション	介護保険サービス下でのリハビリテーション② 通所系サービスの役割と理学療法士の関わり方
第8回	福祉用具(座学・演習)	能力補助を行うために 福祉用具の種類を知る 福祉用具を扱う
第9回	住宅改修①(座学)	理学療法士が環境整備に関わる時①
第10回	住宅改修②(演習)	理学療法士が環境整備に関わる時②
第11回	介護予防の概論	介護予防の基本的な概念と評価方法について
第12回	介護予防の実際	現場で実施している介護予防の取り組みについて実技を交え紹介
第13回	介護老人福祉施設 介護老人保健施設	介護保険サービス下でのリハビリテーション③ 施設サービスの種類と理学療法士の関わり方
第14回	障害者福祉	障害者福祉、地域共生社会と理学療法士への期待
第15回	まとめ・テスト対策	過去問題解答 質問 意見交換 等

評価方法	テスト 60% 出席度 40% 総合的に60点以上を合格とする。
教科書	シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学 テキスト
参考書	なし その他 別資料 配布時あり

理学療法学科	3学年	前期	単位数	1	時間数	30
科目名	生活環境論		授業形態	講義／演習	使用教室	PT3
講師	丸山 寿美恵	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、家屋調査・訪問指導などの経験を活かす。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境とはなにかと学ぶ。 ・住環境整備に必要な基本的知識を学び、理解する。 ・住環境整備に必要なとなる制度について理解する。 ・症例を通し、住環境整備に必要な思考力を身に付ける。
------	--

回	主題	内容
第1回	1章 生活環境学の考え方 2章 日本における生活環境の特徴と課題	生活環境とは/生活環境における高齢者・障害者の考え方 高齢者・障害者を取り巻く生活状況/日本式住宅の問題点
第2回	3章 生活環境整備に関する法的制度	生活環境整備に関連する諸制度 介護保険制度/障害者施策
第3回	5章 生活環境整備の基本① 6章 生活環境整備の基本②	①段差・スペース・木材 ②手すり・建具
第4回	7章 玄関・アプローチの環境整備 8章 廊下・階段の環境整備	
第5回	9章 トイレの環境整備 10章 浴室・脱衣室の環境整備	
第6回	11章 台所・食堂の環境整備 12章 居間・寝室の環境整備	
第7回	4章 生活環境整備の進め方 14章 基本的な建築図面の読み方・書き方	生活環境整備のプロセス
第8回	13章 疾患別環境整備	脳血管障害/パーキンソン病/脊髄損傷
第9回	13章 疾患別環境整備	関節リウマチ/変形性関節症
第10回	症例を通した環境整備	症例に対する環境整備の仕方を学習する(グループ学習)
第11回	症例を通した環境整備	症例に対する環境整備の仕方を学習する(グループ学習)
第12回	症例を通した環境整備	症例に対する環境整備の仕方を学習する(グループ学習)
第13回	福祉用具見学	実際に福祉用具をみて体験する
第14回	症例を通した環境整備	発表
第15回	症例を通した環境整備	発表

評価方法	2/3以上の出席を必要とする。 レポート点(1割)、発表点(グループ点)で3割、定期試験6割、総合的に60点以上を合格とする。 提出遅れなどあれば減点とする。
教科書	シンプルPTOTシリーズ 生活環境学テキスト 南江堂
参考書	シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第3版 南江堂 福祉住環境コーディネーター検定試験2級 改訂第6版 国試の達人 理学療法編 IPEC

作成日：令和6年4月1日

理学療法学科	3学年	後期	単位数	4	時間数	180
科目名	短期臨床実習		授業形態	実習	使用教室	—
講師	橋山浩介	実務経験有	理学療法士として医療施設に勤務経験があり、その経験を臨床実習に反映している。			

教育目標	<p>本学院の教育方針である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療法人立の強みを生かした「高い専門性」 ・医療人にふさわしい人格形成を目指した「広い社会性」 ・社会から求められる医療人の輩出の3点をもとに、臨床教育者(以下CE)による、ある程度の助言・指導のもと理学療法・作業療法を模倣や実施できるようになるために、診療参加型臨床実習(clinical clerkship: 以下CCS)を通し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習することとする。 <p><短期臨床実習の教育目標></p> <p>CEの指導・監視のもと、理学療法士・作業療法士としての基本的な資質を高め、実施を推奨する臨床技能およびCEの臨床的思考過程において「模倣レベル」のスキルを修得する。</p>
------	---

内容	
実習施設:	九州県内を中心とした病院、診療所、介護老人保健施設
実習期間:	4週間
実習形態:	CEの監督の下、診療参加型臨床実習(CCS)を通してCEと一緒に考え、一緒に行動し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習する。 教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。
実習の進め方:	学生には臨床実習要綱を配布し、事前にオリエンテーション実施。 実習施設には臨床教育者会議にて要綱の説明、実習に関する議題をもとに会議を実施。
	<p>実習においては『助手として診療チームに参加し、実体験を通して、セラピストとして修得すべきスキルを育成する』というCCSの概念を通して、学生が多くの臨床的経験を積み、行動変容を引き出す機会となるよう実施する。</p> <p>臨床技能を修得するために「見学—模倣—実施」という診療参加過程での実践指導を基盤にし、対象者における必要な情報・CEの考え方や方針を知り、共有するところから始め、その上で実習チェックリストにある臨床技能項目を理解し、実施可能な項目について計画的に実施していく。</p> <p>実習開始前に臨床で必要とされる基本的な態度、技能が身についているかを判定するためにOSCE(客観的臨床能力試験)を実施する。</p> <p>実習終了後はセラピストとしての実践的な知識の使い方・思考過程など、対象者を通して得られた「認知スキル」を整理し、報告するために実習報告会を実施する。</p>
実習課題:	実習中は「デイリーノート」、「ケースノート」を課題とし、実習中に得た臨床的思考や知識など自己能力を確認するための資料集となる「ポートフォリオ」を作成する。 実習終了後は実習報告会、そのための準備としてレジュメ・スライドの作成を行う。

評価方法	実習内容 7割(出席・社会スキル・実習報告会)、OSCE 3割を基に、総合的に判定する。 総合判定結果において6割以上を合格とする。 (履修すべき実習の日数の5分の4に満たない場合は、当該実習の単位認定を行わない。)
教科書	規定なし
参考書	3年次までに使用した教科書

理学療法学科	4学年	通期	単位数	8	時間数	360
科目名	長期臨床実習Ⅰ		授業形態	実習	使用教室	なし
講師	丸山 寿美恵	実務経験有	理学療法士として医療施設に勤務経験があり、その経験を臨床実習に反映している。			

教育目標	<p>本学院の教育方針である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療法人立の強みを生かした「高い専門性」 ・医療人にふさわしい人格形成を目指した「広い社会性」 ・社会から求められる医療人の輩出の3点をもとに、臨床教育者(以下CE)による、ある程度の助言・指導のもと理学療法・作業療法を模倣や実施できるようになるために、診療参加型臨床実習(clinical clerkship: 以下CCS)を通し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習することとする。 <p><長期臨床実習Ⅰの教育目標></p> <p>CEの指導・監視のもと、理学療法士・作業療法士としての倫理観や基本的態度を身に付け、実施を推奨する臨床技能およびCEの臨床的思考過程において「模倣レベル」から「実施レベル」のスキルを修得する。</p>
------	--

内容	<p>実習施設：九州県内を中心とした病院、診療所、介護老人保健施設</p> <p>実習期間：8週間</p> <p>実習形態：CEの監督の下、診療参加型臨床実習(CCS)を通してCEと一緒に考え、一緒に行動し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習する。 教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。 臨床実習を通して訪問または通所リハビリテーションに関する実習を40時間以上行う。</p> <p>実習の進め方：学生には臨床実習要綱を配布し、事前にオリエンテーション実施。 実習施設には臨床教育者会議にて要綱の説明、実習に関する議題をもとに会議を実施。</p> <p>実習においては『助手として診療チームに参加し、実体験を通して、セラピストとして修得すべきスキルを育成する』というCCSの概念を通して、学生が多くの臨床的経験を積み、行動変容を引き出す機会となるよう実施する。 臨床技能を修得するために「見学－模倣－実施」という診療参加過程での実践指導を基盤にし、対象者における必要な情報・CEの考え方や方針を知り、共有するところから始め、その上で実習チェックリストにある臨床技能項目を理解し、実施可能な項目について計画的に実施していく。 実習開始前に臨床で必要とされる基本的な態度、技能が身についているかを判定するためにOSCE(客観的臨床能力試験)を実施する。 実習終了後はセラピストとしての実践的な知識の使い方・思考過程など、対象者を通して得られた「認知スキル」を整理し、報告するために実習報告会を実施する。</p> <p>実習課題：実習中は「デイリーノート」、「ケースノート」を課題とし、実習中に得た臨床的思考や知識など自己能力を確認するための資料集となる「ポートフォリオ」を作成する。 実習終了後は実習報告会、そのための準備としてレジュメ・スライドの作成を行う。</p>
----	--

評価方法	<p>実習内容(出席・社会スキル・実習報告会)、OSCEを基に、総合的に判定する。 総合判定結果において6割以上を合格とする。 (履修すべき実習の日数の5分の4に満たない場合は、当該実習の単位認定を行わない。)</p>
教科書	規定なし
参考書	3年次までに使用した教科書 国試の達人

理学療法学科	4学年	通期	単位数	8	時間数	360
科目名	長期臨床実習Ⅱ		授業形態	実習	使用教室	なし
講師	丸山 寿美恵	実務経験有	理学療法士として医療施設に勤務経験があり、その経験を臨床実習に反映している。			

教育目標	<p>本学院の教育方針である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療法人立の強みを生かした「高い専門性」 ・医療人にふさわしい人格形成を目指した「広い社会性」 ・社会から求められる医療人の輩出の3点をもとに、臨床教育者(以下CE)による、ある程度の助言・指導のもと理学療法・作業療法を模倣や実施できるようになるために、診療参加型臨床実習(clinical clerkship: 以下CCS)を通し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習することとする。 <p><長期臨床実習Ⅰの教育目標></p> <p>CEの指導・監視のもと、理学療法士・作業療法士としての倫理観や基本的態度を身に付け、実施を推奨する臨床技能およびCEの臨床的思考過程において「模倣レベル」から「実施レベル」のスキルを修得する。</p>
------	--

内容	<p>実習施設：九州県内を中心とした病院、診療所、介護老人保健施設</p> <p>実習期間：8週間</p> <p>実習形態：CEの監督の下、診療参加型臨床実習(CCS)を通してCEと一緒に考え、一緒に行動し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習する。 教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。 臨床実習を通して訪問または通所リハビリテーションに関する実習を40時間以上行う。</p> <p>実習の進め方：学生には臨床実習要綱を配布し、事前にオリエンテーション実施。 実習施設には臨床教育者会議にて要綱の説明、実習に関する議題をもとに会議を実施。</p> <p>実習においては『助手として診療チームに参加し、実体験を通して、セラピストとして修得すべきスキルを育成する』というCCSの概念を通して、学生が多くの臨床的経験を積み、行動変容を引き出す機会となるよう実施する。 臨床技能を修得するために「見学－模倣－実施」という診療参加過程での実践指導を基盤にし、対象者における必要な情報・CEの考え方や方針を知り、共有するところから始め、その上で実習チェックリストにある臨床技能項目を理解し、実施可能な項目について計画的に実施していく。 実習開始前に臨床で必要とされる基本的な態度、技能が身についているかを判定するためにOSCE(客観的臨床能力試験)を実施する。 実習終了後はセラピストとしての実践的な知識の使い方・思考過程など、対象者を通して得られた「認知スキル」を整理し、報告するために実習報告会を実施する。</p> <p>実習課題：実習中は「デイリーノート」、「ケースノート」を課題とし、実習中に得た臨床的思考や知識など自己能力を確認するための資料集となる「ポートフォリオ」を作成する。 実習終了後は実習報告会、そのための準備としてレジュメ・スライドの作成を行う。</p>
----	--

評価方法	<p>実習内容(出席・社会スキル・実習報告会)、OSCEを基に、総合的に判定する。 総合判定結果において6割以上を合格とする。 (履修すべき実習の日数の5分の4に満たない場合は、当該実習の単位認定を行わない。)</p>
教科書	規定なし
参考書	3年次までに使用した教科書 国試の達人

理学療法学科	4学年	通期	単位数	8	時間数	120
科目名	理学療法セミナー		授業形態	講義	使用教室	PT4/基礎医学実習室
講師	丸山 寿美恵	実務経験有	理学療法士として医療施設に勤務経験があり、その経験を臨床実習に反映している。			
教育目標	4年間の知識の再確認と国家試験に必要な知識の習得。					
回	主題	内容				
第1回	第3回分野別学習(運動器系)	グループ学習①				
第2回	第3回分野別学習(運動器系)	グループ学習②				
第3回	第3回分野別模試	解剖・運動・生理学(運動器系)				
第4回	第3回分野別学習(運動器系)	試験後復習期間				
第5回	第3回分野別学習(運動器系)	試験後復習期間				
第6回	3科目試験	第1.2.3回分野別試験の総括試験				
第7回	3科目試験	第1.2.3回分野別試験の総括試験				
第8回	第1回分野別学習(病理・内科)	グループ学習①				
第9回	第1回分野別学習(病理・内科)	グループ学習②				
第10回	第1回分野別模	(臨床医学)病理・内科学				
第11回	第1回分野別学習(病理・内科)	試験後復習期間				
第12回	第1回分野別学習(病理・内科)	試験後復習期間				
第13回	第2回分野別学習(整形外科)	グループ学習①				
第14回	第2回分野別学習(整形外科)	グループ学習②				
第15回	第2回分野別模試	(臨床医学)整形外科				
第16回	第2回分野別学習(整形外科)	試験後復習期間				
第17回	第2回分野別学習(整形外科)	試験後復習期間				
第18回	第3回分野別学習(神経内科・発達)	グループ学習①				
第19回	第3回分野別学習(神経内科・発達)	グループ学習②				
第20回	第3回分野別模試	(臨床医学)神経内科・人間発達学				
第21回	第3回分野別学習(神経内科・発達)	試験後復習期間				
第22回	第3回分野別学習(神経内科・発達)	試験後復習期間				
第23回	第4回分野別学習(心理・精神)	グループ学習①				
第24回	第4回分野別学習(心理・精神)	グループ学習②				
第25回	第4回分野別模試	(臨床医学)臨床心理・精神医学				
第26回	第4回分野別学習(心理・精神)	試験後復習期間				
第27回	第4回分野別学習(心理・精神)	試験後復習期間				
第23回	第5回分野別学習(管理学)	グループ学習①				
第24回	第5回分野別学習(管理学)	グループ学習②				
第25回	第5回分野別模試	理学療法管理学				
第26回	第5回分野別学習(管理学)	試験後復習期間				
第27回	第5回分野別学習(管理学)	試験後復習期間				

第28回	第1回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第29回	第1回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第30回	第1回分野別学習(専門①)	グループ学習①
第31回	第1回分野別学習(専門①)	グループ学習②
第32回	第1回分野別模試	理学療法 専門①
第33回	第2回分野別学習(専門②)	グループ学習①
第34回	第2回分野別学習(専門②)	グループ学習②
第35回	第2回分野別模試	理学療法 専門②
第36回	第3回分野別学習(専門③)	グループ学習①
第37回	第3回分野別学習(専門③)	グループ学習②
第38回	第3回分野別模試	理学療法 専門③
第39回	第4回分野別学習(専門④)	グループ学習①
第40回	第4回分野別学習(専門④)	グループ学習②
第41回	第4回分野別模試	理学療法 専門④
第42回	第5回分野別学習(専門⑤)	グループ学習①
第43回	第5回分野別学習(専門⑤)	グループ学習②
第44回	第5回分野別模試	理学療法 専門⑤
第45回	第6回分野別学習(専門⑥)	グループ学習①
第46回	第6回分野別学習(専門⑥)	グループ学習②
第47回	第6回分野別模試	理学療法 専門⑥
第48回	第6回分野別学習(専門⑥)	試験後復習期間
第49回	第6回分野別学習(専門⑥)	試験後復習期間
第50回	集中学習期間	グループ学習・第2回医歯薬模試
第51回	第2回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第52回	第2回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第53回	集中学習期間	グループ学習・三輪模試
第54回	第3回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第55回	第3回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第56回	集中学習期間	グループ学習・第3回医歯薬模試
第57回	第4回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第58回	第4回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第59回	集中学習期間	グループ学習・国家試験直前模試①
第60回	集中学習期間	グループ学習・国家試験直前模試②・国家試験前オリエンテーション
評価方法	卒業試験(全4回)の成績にて60点以上を単位認定とする。 1次判定: 第1.2回卒業試験成績 2次判定: 第3.4回卒業試験成績	
教科書	・国試の達人 運動解剖生理学編・臨床医学編・理学療法編、IPEC ・国家試験必修ポイント 基礎医学・臨床医学・基礎PT学・障害別PT学、医歯薬出版株式会社	
参考書	・1.2.3年次教科書 ・各授業授業資料 ・動画教材	